

2023年度第2四半期決算の概要

(2023年4月1日～2023年9月30日)

2023年10月31日

山陽特殊製鋼株式会社

<https://www.sanyo-steel.co.jp/>



「さんとくん」
(当社キャラクター)

目次

1. 2023FY2Q決算および2023FY業績予想

損益の概要

事業環境

2023FY業績予想

2023FY中間配当および配当予想

2. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

3. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)、

セグメント別損益、貸借対照表(連結)、キャッシュ・フロー計算書(連結)

経常利益の変化要因(2022FY上期→2023FY上期、2023FY1Q→2023FY2Q、

2022FY→2023FY今回予想、2023FY上期→2023FY下期今回予想、

2023FY前回予想→2023FY今回予想)

Ovakoの状況、SSMIの状況

4. トピックス

5. 参考資料

2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

主要市場動向

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

1. 2023FY2Q決算 および 2023FY業績予想

2023FY上期損益の概要 (対2022FY上期)

連結経常利益78億円(前年同期比-59億円)

売上数量の減少、Ovakoの一過性影響の縮小により、減収減益

エネルギーサーチャージ等の適用に伴い販売価格は上昇も、売上数量の減少や原燃料価格の上昇、諸資材等へのインフレ影響に加え、Ovakoの売上数量の減少や一過性影響の縮小などにより、前年同期比減収減益。

(単位：億円、%)

	2023FY上期 (A)		2022FY上期 (B)		増減 (A) - (B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,853	100.0	1,954	100.0	-102	-5.2
営業利益	73	4.0	132	6.7	-59	-44.4
経常利益	78	ROS 4.2	137	ROS 7.0	-59	-43.1
内、当社単独	69	7.2	70	7.2	-1	-0.8
内、Ovako	51	6.8	89	10.4	-39	-43.2
内、SSMI	3	2.8	▲2	-	+5	-
内、のれん償却費	▲16	-	▲14	-	-2	-
税後利益 (注1)	52	2.8	99	5.1	-46	-47.0
のれん償却費を除く税後利益	68	3.7	113	5.8	-45	-39.6
売上数量 (千t)	739	123.2 /月	812	135.3 /月	-73	-12.1 /月
内、当社単独	427	71.2 /月	458	76.3 /月	-30	-5.0 /月
内、Ovako	256	42.6 /月	303	50.5 /月	-48	-7.9 /月
内、SSMI	56	9.4 /月	51	8.5 /月	+5	+0.8 /月

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～6月の数値

事業環境

需要動向

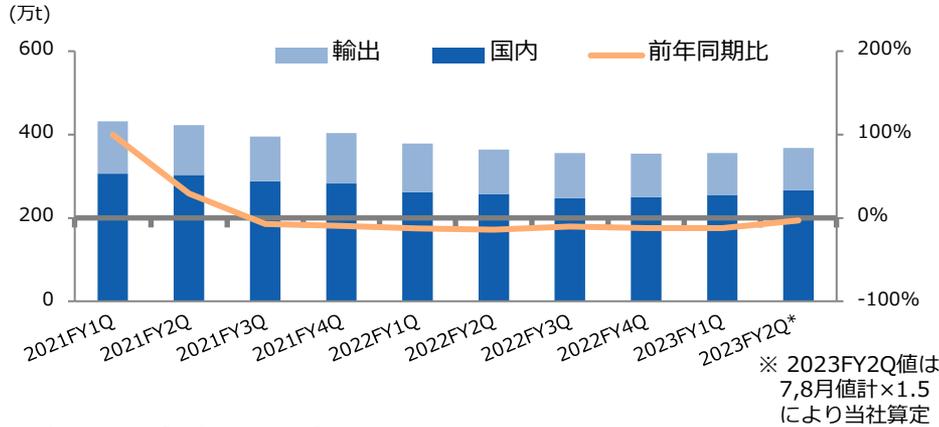
半導体不足緩和も、自動車生産の回復は緩やか、建設・産業機械向けは調整局面が継続。欧州の景気悪化や、中国経済の減速の継続による特殊鋼需要の回復遅れを懸念。

原燃料価格

鉄スクラップをはじめ、原燃料価格は依然として高位で推移。諸資材等のインフレも進展。エネルギー価格は下期にかけて更なる低下を見込むも、下げ止まり。

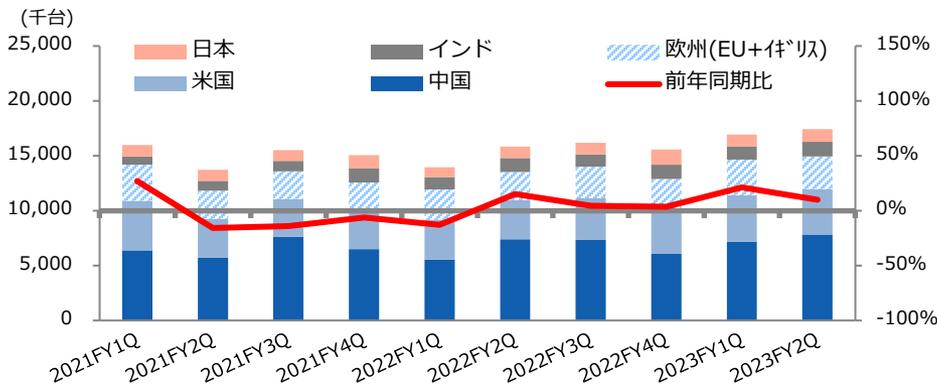
1. 特殊鋼受注数量

出典：一般社団法人 日本鉄鋼連盟

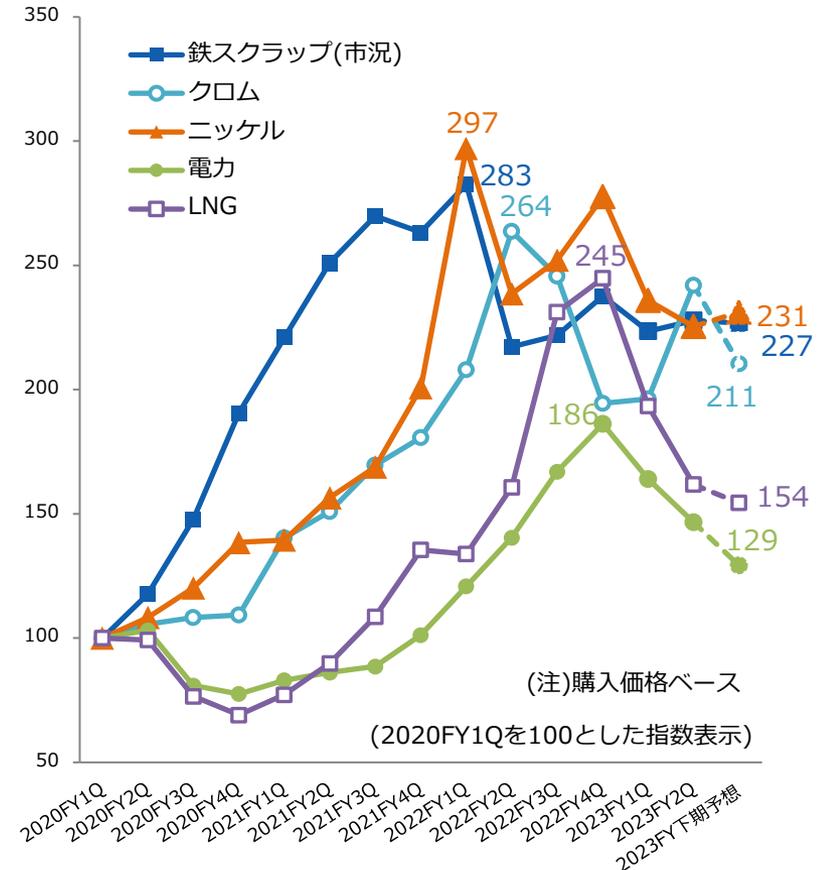


2. 主要国自動車販売台数

出典：マークラインズ、ACEA



3. 原燃料価格推移



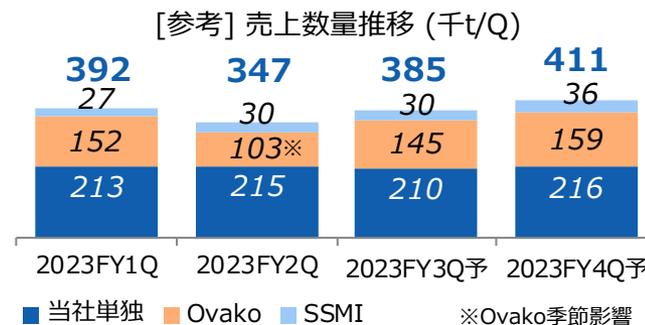
2023FY業績予想 (2023/10/31公表)

連結経常利益200億円(前回予想を据え置き)

上期業績は、売上数量が予想を下回るも、ほぼ前回予想並み。

今後、自動車生産は緩やかな回復が継続するも、建機・産機向けは調整継続。

欧州景気悪化、中国経済減速により、下期の売上数量はOvakoの季節差影響を除くと上期並みを想定。鉄スクラップをはじめ、原燃料価格が高位で推移する中、コスト削減等の必要な対策を講じ、前回予想並みの収益確保を目指す。



(単位：億円、%)

	今回予想(2023/10/31公表) (A)			前回予想(2023/7/28公表) (B)			増減 (A)-(B)		
	上期(実)	下期(予)	通期	上期(予)	下期(予)	通期	上期	下期	通期
売上高	1,853	1,947	3,800	1,850	2,010	3,860	+3	-63	-60
営業利益	73	127	200	75	125	200	-2	+2	-
経常利益	78	122	200	80	120	200	-2	+2	-
内、当社単独	69	64	133	70	80	150	-1	-16	-17
内、Ovako	51	59	110	47	53	100	+4	+6	+10
内、SSMI	3	4	7	3	4	7	-	-	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲16	▲16	▲31	-	-	-1
税後利益(注1)	52	88	140	50	90	140	+2	-2	-
ROE (%)			6.3			6.4			-0.1
のれん償却費を除く税後利益	68	104	172	65	106	171	+3	-2	+1
ROE (%)			7.8			7.8			-

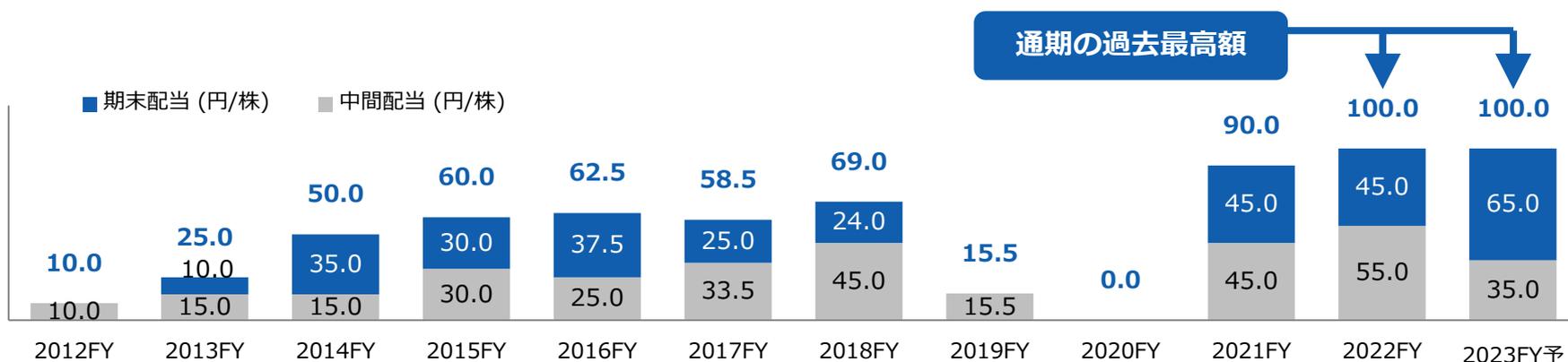
(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益 (注2) SSMI：1月～12月の数値

【予想の主要前提(2023年10月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 50.0 千円/t(姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 145円/\$、154円/€

2023FY中間配当および配当予想 (2023/10/31公表)

		今回予想(2023/10/31公表) (A)			前回予想(2023/7/28公表) (B)			増減 (A)-(B)		
		中間(実)	期末(予)	通期	中間(予)	期末(予)	通期	中間	期末	通期
1株当たり純利益	A	96.1円		257.0円	91.8円		257.0円	+4.3円		-円
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	125.3円		315.7円	119.3円		313.8円	+6.0円		+1.9円
1株当たり配当金	C	35.0円	65.0円	100.0円	35.0円	65.0円	100.0円	-円	-円	-円
配当性向	C/A	36.4%		38.9%	38.1%		38.9%	-1.7%		-%
	C/B	27.9%		31.7%	29.3%		31.9%	-1.4%		-0.2%



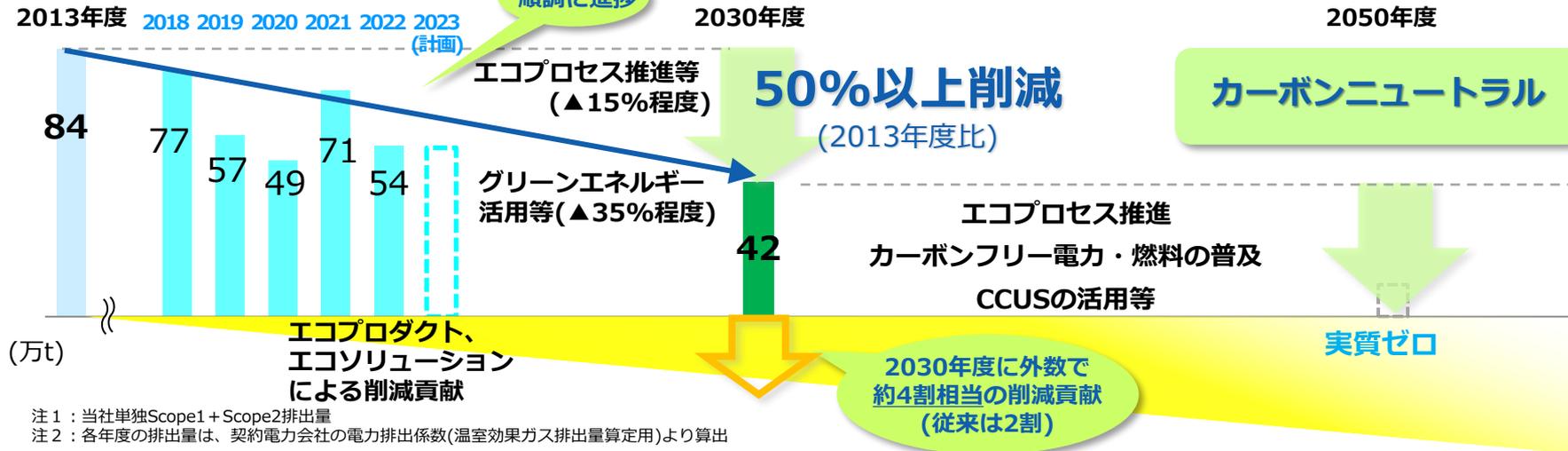
<配当方針>

配当性向、1株当たり配当額水準および成長投資等の所要資金などを総合的に勘案
通常の連結配当性向**35%**程度、のれん償却除き**30%**程度を目安とする

2. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

2050年に向けた当社のロードマップ

【当社CO₂排出量注1】



エコプロセス

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進

- リジエネバーナーを採用した省エネ加熱炉
- ※2023年度からインターナショナルカーボンプライシングを導入

グリーンエネルギー活用

カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用

- ※2022年度から再エネ由来電力の一部活用を開始

エコプロダクト

製品を使用する段階でCO₂排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進

- 長寿命風力発電用軸受鋼の開発

エコソリューション

エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOvako、SSMI等の海外グループ会社に展開

- 海外グループ会社への技術展開

グリーンエネルギー活用の取り組み

1. Ovako カーボンフリー水素プラントが完成 (2023年9月7日公表)

OvakoがスウェーデンのHofors(ホーフォーシュ)工場で建設を進めていたカーボンフリー水素プラントが完成。2023年9月5日にスウェーデンのクリスターソン首相をはじめとする多数の来賓列席のもと、開所式を挙行。



Ovakoのカーボンフリー水素プラント

脱化石電力を活用した水の電気分解により、**毎時約4千m³のカーボンフリー水素を生成**する能力を有する

生成した水素を特殊鋼製造の燃料として活用することで、**Hofors工場加熱工程で排出するCO₂を約50%(約2万t/年)削減可能**

スウェーデン政府による財政支援と現地有力企業4社(Volvo Group、Hitachi Energy、H2 Green Steel、Nel Hydrogen)によるコンソーシアム参加を受けたもので、**欧州最大級の設備**

今後、**Ovakoの各製鉄所での水素プラント導入を検討**するなど気候変動問題への更なる取り組みを推進



Ovako水素プラントの電解装置

グリーンエネルギー活用の取り組み

2. 当社で2024年夏より太陽光発電を開始 (2023年10月27日公表)

当社は、本社工場内において太陽光発電を導入することを決定。
建物面積約5,600㎡の製品倉庫の屋上に太陽光発電設備を設置、2024年夏頃の完成を予定。

同設備を設置する製品倉庫および本社事務所の年間電力消費量を上回る約60万kWh/年の電力を太陽光発電による再生可能エネルギーで賄うことが可能となり、約200t/年のCO₂排出量を削減できる見込み。



太陽光発電設備を設置する製品倉庫

3. SSMIが再エネ由来電力の購入契約を締結 (2023年9月6日公表)

SSMIは、インド最大の総合電力企業(Tata Power Company Limited)の子会社であるTata Power Renewable Energy Limitedと、太陽光発電による再エネ由来電力の購入契約を締結。

2024年3月から太陽光発電による再エネ由来電力を購入し、自社の製造工程で使用する予定。

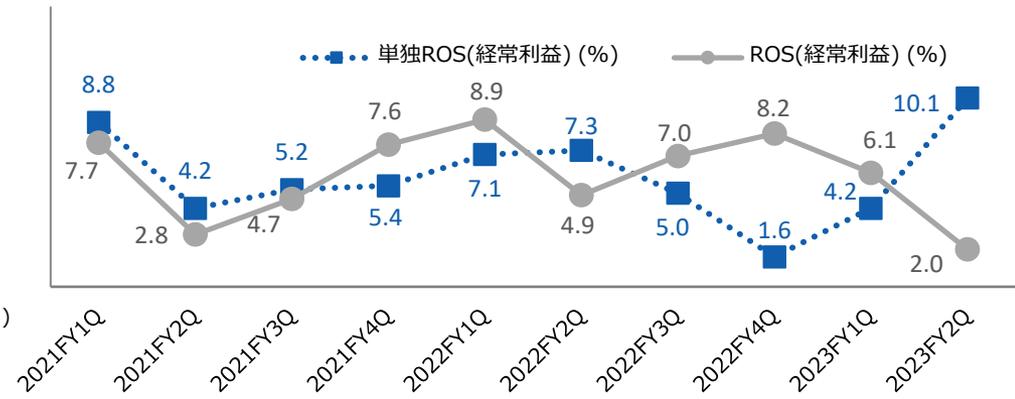
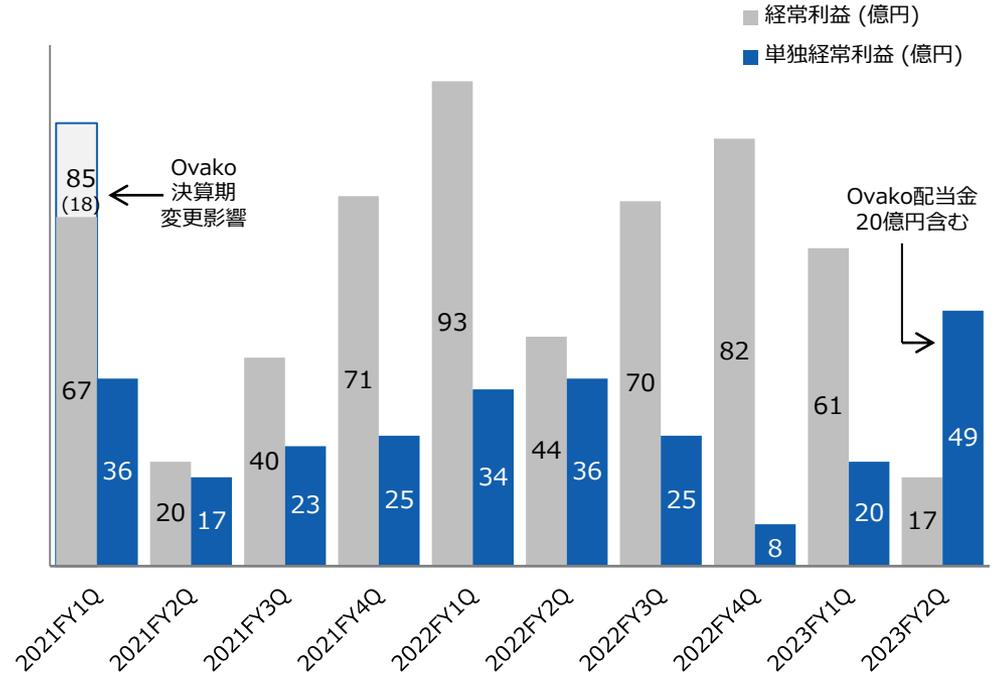
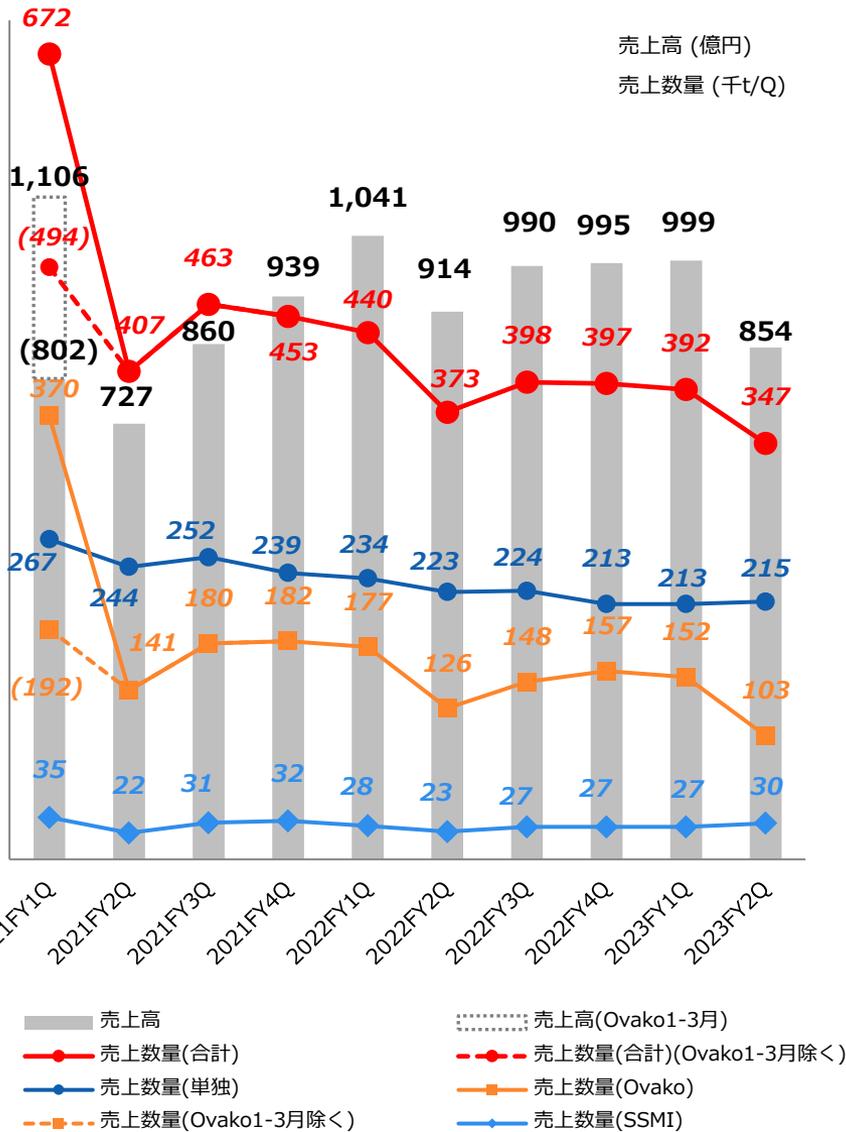
太陽光発電による電力
約62百万kWh/年を購入し
SSMIの製造工程で使用

製造工程で排出する
CO₂のおよそ25%
(最大 約42,500t/年)
を削減できる見込み



3. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)



セグメント別損益

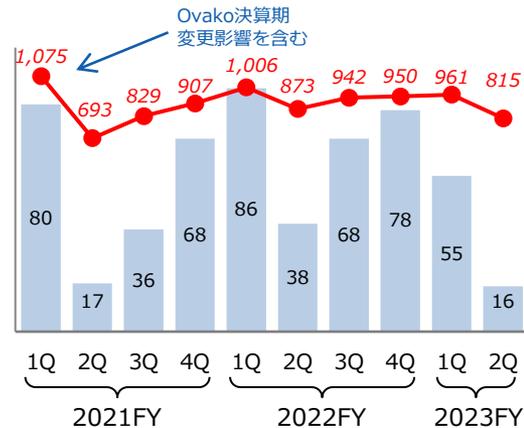
(単位：億円、%)

	2023FY上期 (A)			2022FY上期 (B)			対前年同期 (A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,776	71	4.0	1,879	124	6.6	-102	-53	-2.6
粉末	27	5	17.2	26	6	21.8	+1	-1	-4.6
素形材	90	▲3	-3.1	94	2	1.8	-4	-4	-4.8
小計	1,894	73	3.8	1,999	131	6.6	-105	-58	-2.7
その他	6	0	2.5	7	0	1.9	-1	+0	+0.6
調整額	▲47	0	-	▲52	1	-	+4	-0	-
連結計	1,853	73	4.0	1,954	132	6.7	-102	-59	-2.8

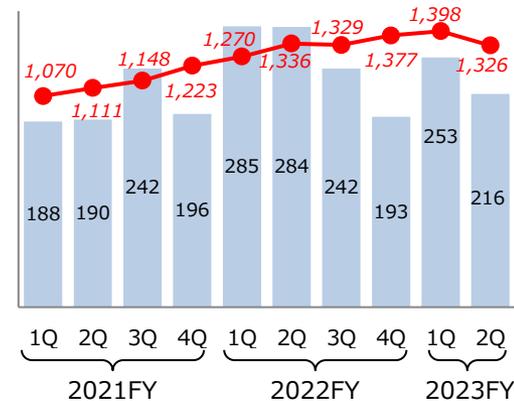
事業別損益推移

■ 営業利益 ● 売上高

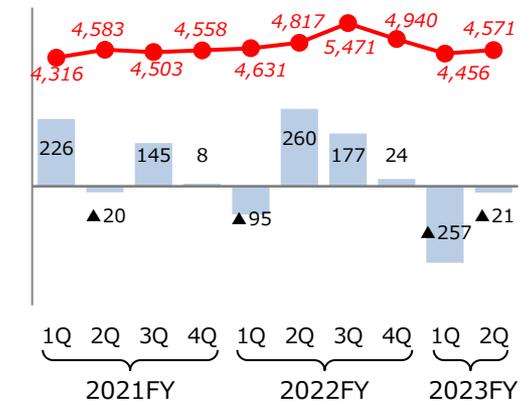
鋼材セグメント (単位：億円)



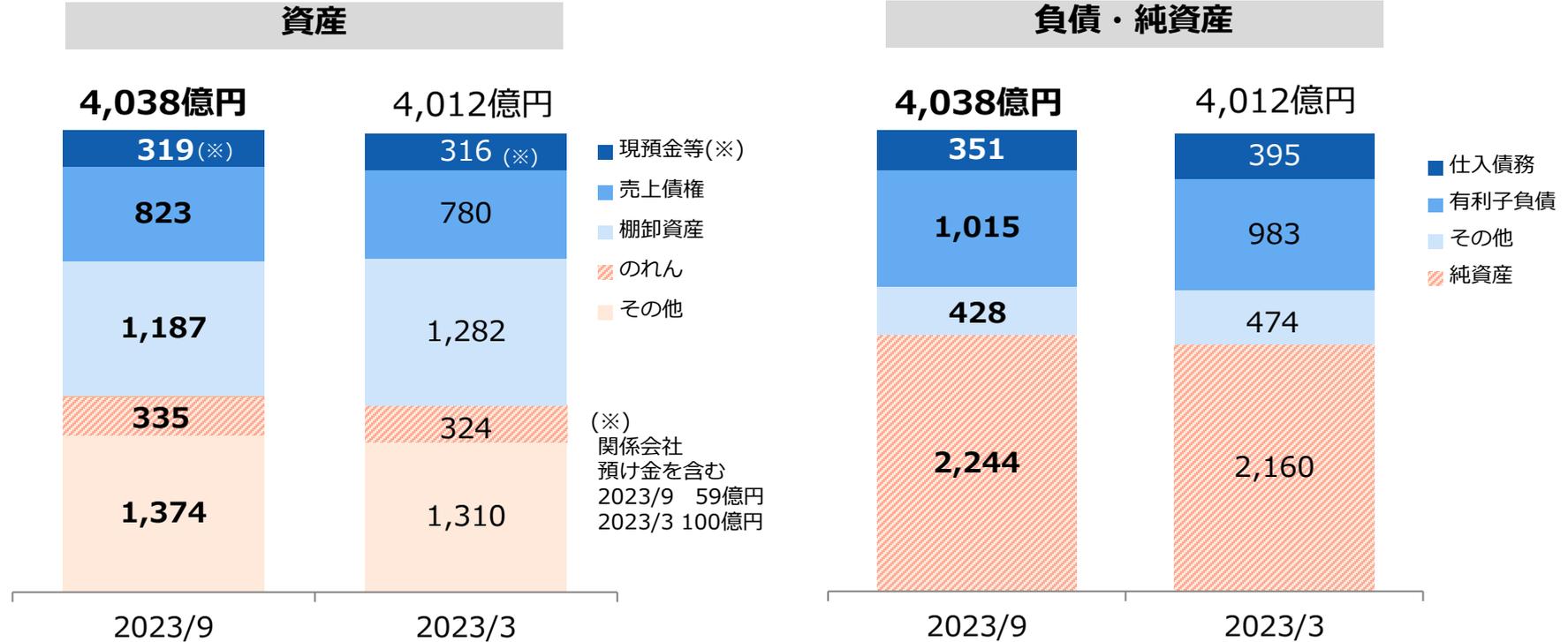
粉末セグメント (単位：百万円)



素形材セグメント (単位：百万円)



貸借対照表 (連結)



資産の主な増減 +26億円 (+0.6%)

[内、為替影響+168億円]

1. 売上債権 +43億円：金融機関休日影響による増加
2. 棚卸資産 -95億円：在庫削減および原燃料価格の低下
3. のれん +11億円：償却-15億円、為替影響+26億円
4. その他 +64億円：有形固定資産の増加など

負債・純資産の主な増減 +26億円 (+0.6%)

[内、為替影響+168億円]

1. 仕入債務 -44億円：売上減に伴う減少
2. 有利子負債 +32億円：運転資金調達に伴う増加
3. その他 -46億円：法人税等の支払い
4. 純資産 +84億円：為替換算調整勘定+71億円
利益剰余金+28億円
(税後利益+52億円、配当-25億円)

(参考)主要各社の総資産額(2023/9末：連結消去前)
当社 2,827億円 Ovako 1,257億円 SSMI 170億円

自己資本比率
2023/9末 55.1% 2023/3末 53.4%

キャッシュ・フロー計算書 (連結)

(単位：億円)

	2021FY上期	2021FY下期	2022FY上期	2022FY下期	2023FY上期	
営業活動によるC/F (A)	2	69	△71	192	147	
税金等調整前当期純利益	EBITDA (簡便計算)	213 { 105 / 108 }	190 { 105 / 85 }	221 { 138 / 83 }	226 { 142 / 84 }	159 { 76 / 83 }
減価償却費・のれん償却額						
法人税等の支払または還付	△3	△1	△50	△24	△50	
運転資金等	△207	△120	△242	△10	38	
投資活動によるC/F (B)	△87	△46	△66	△61	△108	
設備支出	△87	△50	△63	△68	△104	
株式売却収入	6	-	-	0	1	
その他	△6	4	△4	7	△5	
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△85	23	△137	131	38	
財務活動によるC/F (C)	22	1	115	△30	△55	
借入金・社債・CP・リース債務の増減	22	25	140	4	△4	
配当金の支払	△0	△24	△25	△30	△25	
その他	△0	△0	△0	△4	△26	
換算差額 (D)	3	6	12	1	18	
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△60	30	△11	102	2	

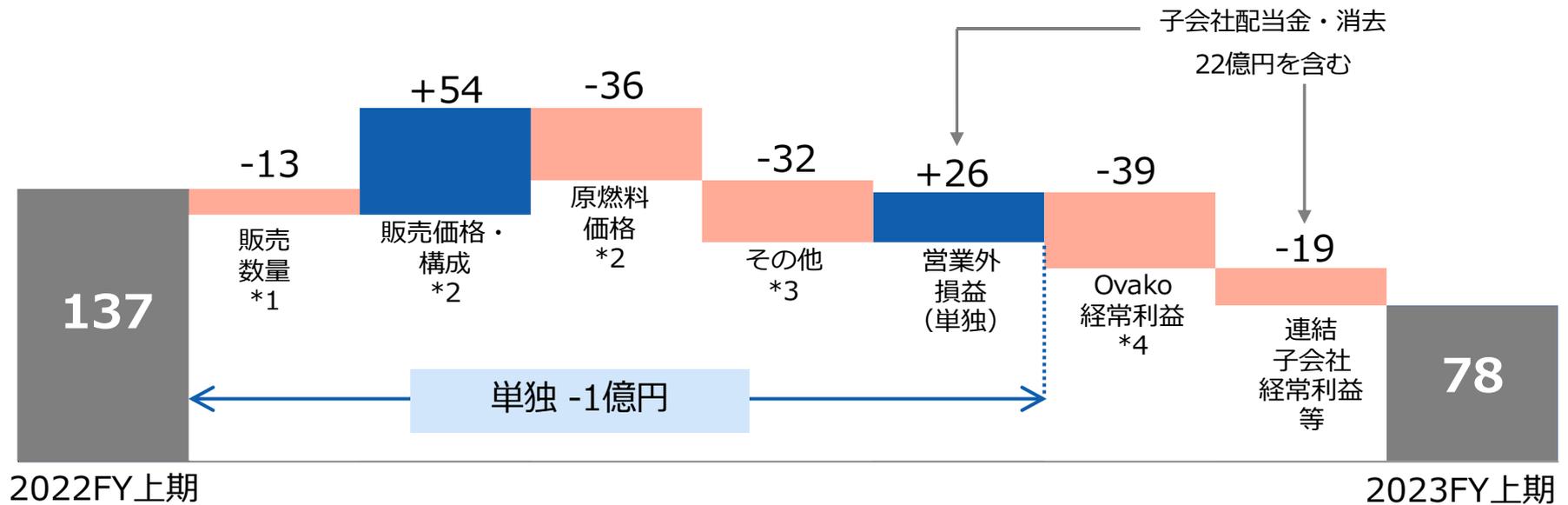
(注)キャッシュには関係会社預け金含む

格付ランクアップ

2023年10月13日に日本格付研究所(JCR)の格付更新 長期発行体格付 A → **A+** (安定的)

経常利益の変化要因 (2022FY上期→2023FY上期)

(億円)



山陽	70
Ovako	89
その他	-22

連結 -59億円

山陽	69
Ovako	51
その他	-42

*1 販売数量

- 7%減 (-31千t : 458千t→427千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- 鉄スクラップ-6 (○4→×2)
- エネルギー+21 (×11→○10)

*3 その他内訳

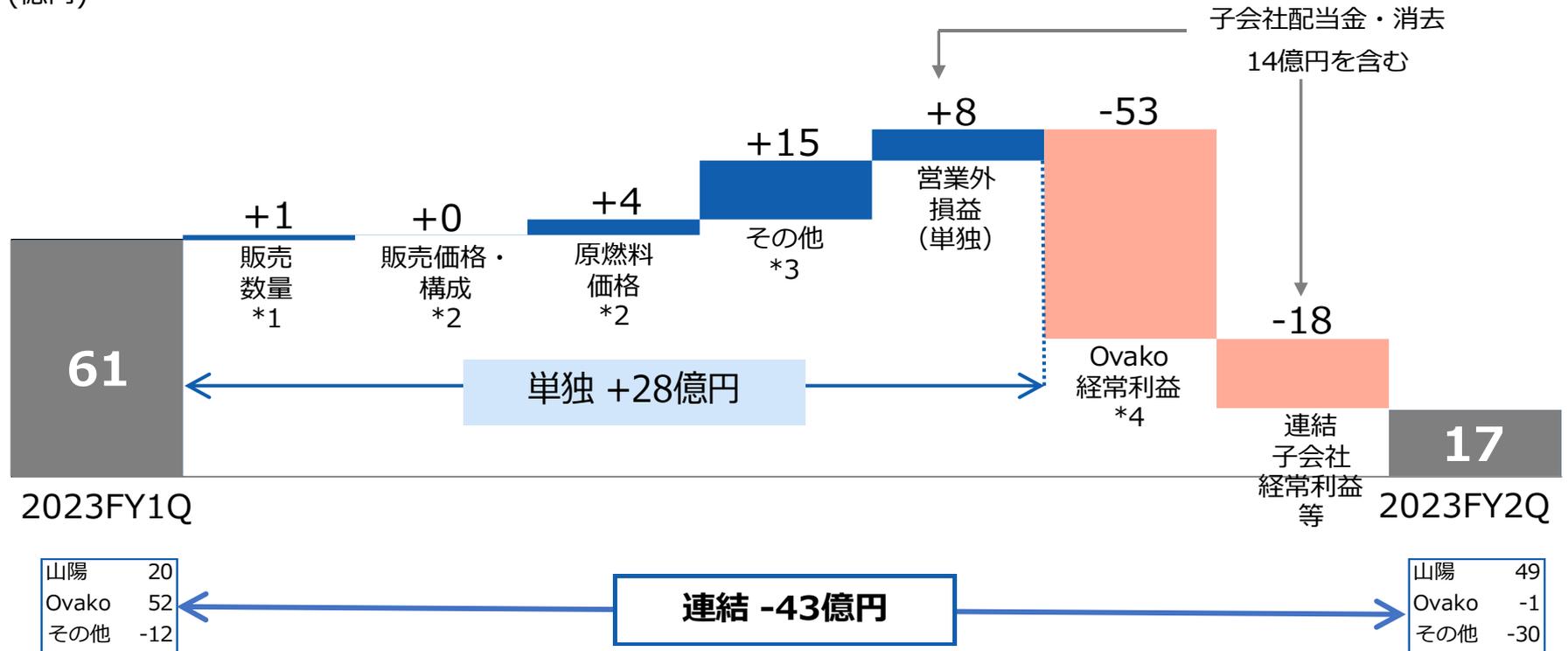
- 変動費コストダウン+2、諸資材・外注・物流費等-15、修繕費-6、固定費-13

*4 Ovako経常利益

- 販売数量 -45
16%減 (-47千t : 303千t→256千t)
- 一過性要因 -24 (+48→+24)
うち、エネルギーサーチャージ基準差 -14 (+14→ 0)
健康保険運用超過収益返金 -6 (+6→ 0)
スクラップ市場価格差 +1 (+14→ +15)
為替影響 -9 (+12→ +3)
エネルギー補助金 +6 (0→ +6)
- 販売・原燃料価格、構成 +24
- その他 (為替レート差等) +6

経常利益の変化要因 (2023FY1Q→2023FY2Q)

(億円)



*1 販売数量

- ・ 1%増 (+2千t : 213千t→215千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+4 (×3→○1)
- ・ エネルギー+4 (○3→○7)

*3 その他内訳

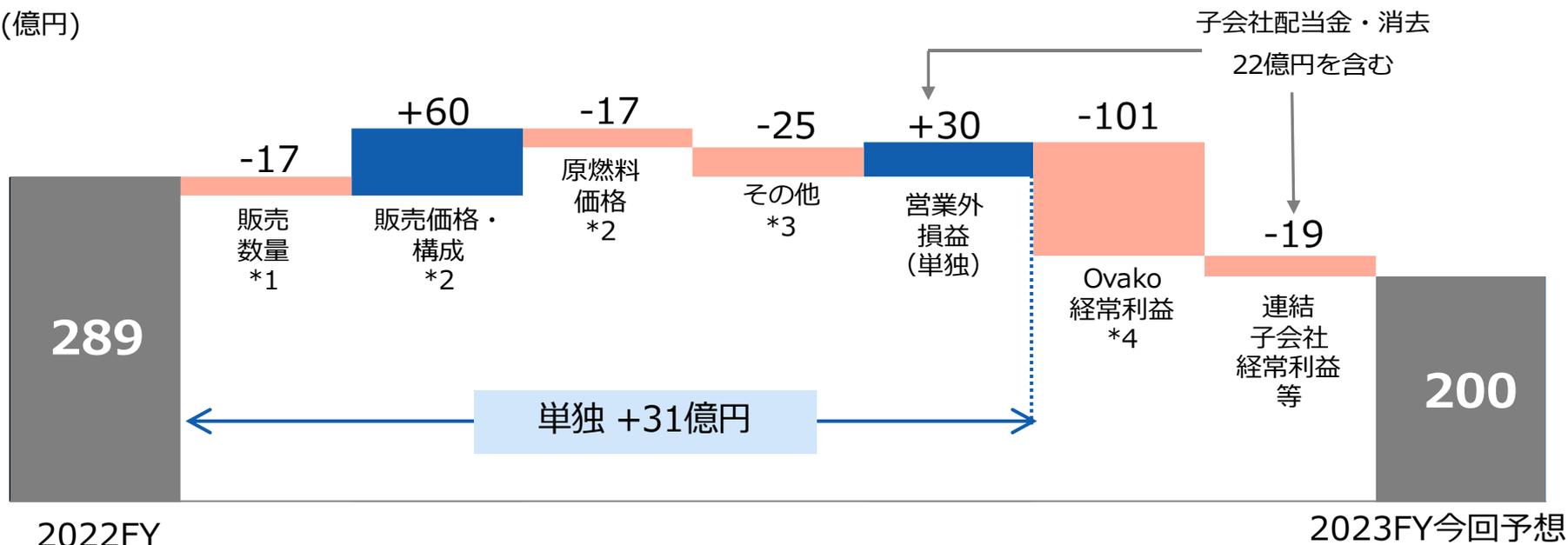
- ・ 変動費コストダウン+3、諸資材・外注・物流費等+7、修繕費+3、固定費+2

*4 Ovako経常利益

- ・ 販売数量 (季節差等) -55
32%減 (-49千t : 152千t→103千t)
- ・ 一過性要因 -8 (+16→+8)
うち、スクラップ市場価格差
為替影響 -1 (+8→ +7)
エネルギー補助金 -7 (+5→ -2)
0 (+3→ +3)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -8
- ・ その他 (固定費等) +18

経常利益の変化要因 (2022FY→2023FY今回予想)

(億円)



山陽	102
Ovako	211
その他	-25

連結 -89億円

山陽	133
Ovako	110
その他	-43

*1 販売数量

- 5%減 (-41千t : 894千t→853千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- 鉄スクラップ-15 (○13→×2)
- エネルギー+58 (×30→○28)

*3 その他内訳

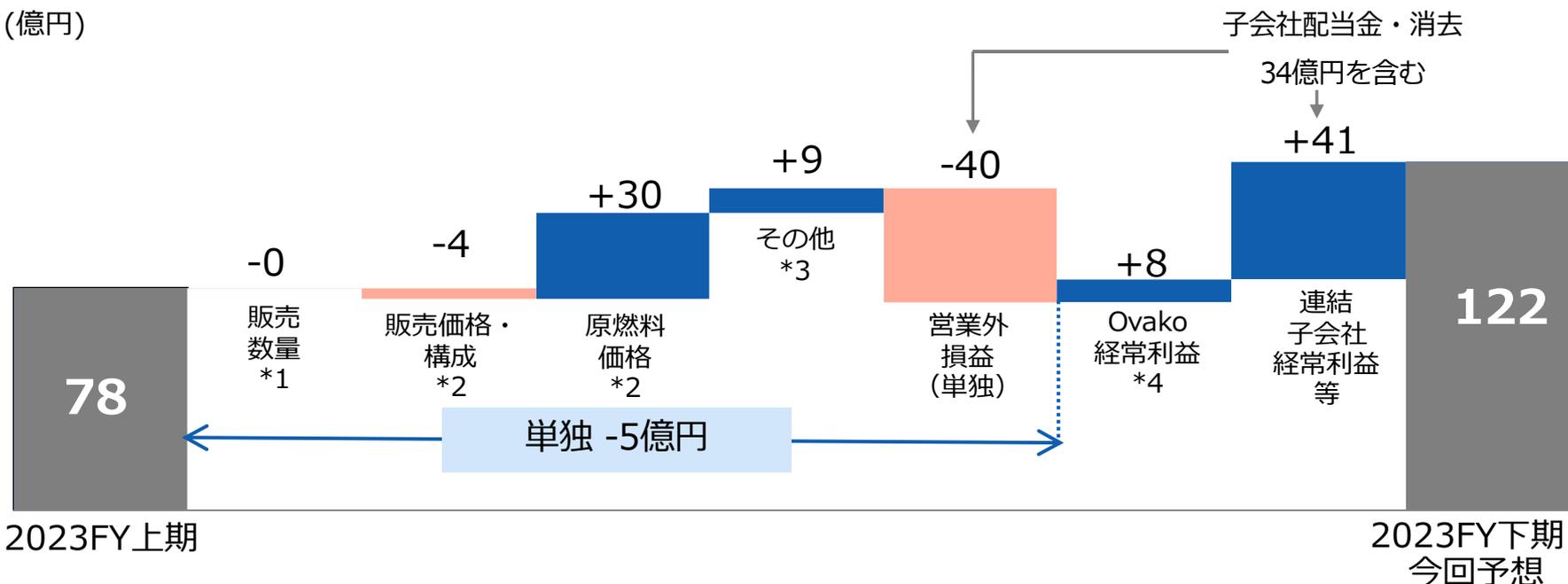
- 変動費コストダウン+9、諸資材・外注・物流費等-18、修繕費-4、固定費-12

*4 Ovako経常利益

- 販売数量 -49
8%減 (-48千t : 608千t→560千t)
- 一過性要因 -72 (+96→+24)
うち、エネルギーサーチャージ基準差 -28 (+28→ 0)
健康保険運用超過収益返金 -6 (+6→ 0)
スクラップ市場価格差 -18 (+33→ +15)
為替影響 -21 (+24→ +3)
エネルギー補助金 +6 (0→ +6)
- 販売・原燃料価格、構成 +12
- その他 (為替レート差等) +8

経常利益の変化要因 (2023FY上期→2023FY下期今回予想)

(億円)



山陽	69
Ovako	51
その他	-42

山陽	64
Ovako	59
その他	-1

*1 販売数量

- ・ 0%減 (-1千t : 427千t→426千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+2 (×2→○0)
- ・ エネルギー+8 (○10→○18)

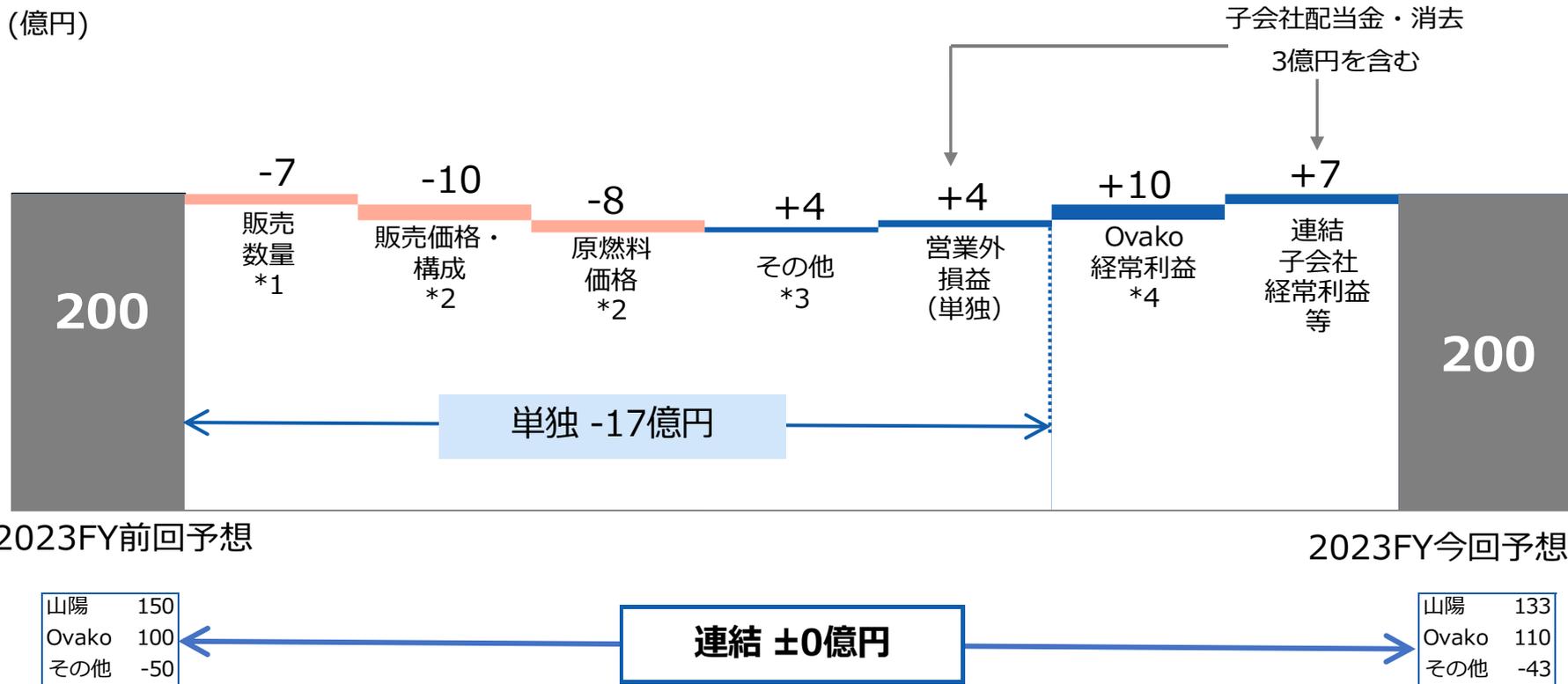
*3 その他内訳

- ・ 変動費コストダウン+5、諸資材・外注・物流費等+1、修繕費+2、固定費+1

*4 Ovako経常利益

- ・ 販売数量 (季節差等) +48
19%増 (+48千t : 256千t→304千t)
- ・ 一過性要因 -24 (+24→0)
 - スクラップ市場価格差 -15 (+15→ 0)
 - 為替影響 -3 (+3→ 0)
 - エネルギー補助金 -6 (+6→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -8
- ・ その他 (固定費等) -8

経常利益の変化要因 (2023FY前回予想→2023FY今回予想)



*1 販売数量

- ・ 2%減 (-17千t : 870千t→853千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ-4 (○2→×2)
- ・ エネルギー-0 (○28→○28)

*3 その他内訳

- ・ 諸資材・外注・物流費等+3、修繕費+1

*4 Ovako 経常利益

- ・ 販売数量 -22
4%減 (-25千t : 585千t→560千t)
- ・ 一過性要因 +8 (+16→+24)
うち、スクラップ市場価格差 +7 (+8→ +15)
為替影響 -2 (+5→ +3)
エネルギー補助金 +3 (+3→ +6)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 +12
- ・ その他 (固定費等) +10

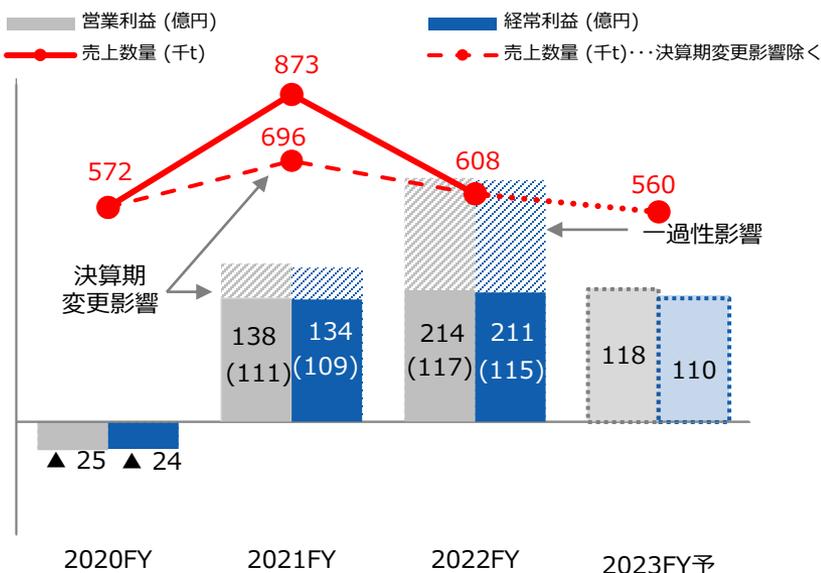
Ovakoの状況

2023FY見通し

経常利益110億円(前期比-101億円)

- ・2023FY上期は、前年同期比で販売数量減や一過性要因の減少はあったものの、ベース値上げ等により経常利益は51億円(前年同期比-39億円(89→51))。
- ・2023FY下期は、欧州景気後退による販売数量減少を見込むものの、コスト抑制および生産構造最適化の着実な実行を通じ、経常利益59億円を計画。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化の取り組みと3社連携

1. 収益力の強化

- ① ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
- ② ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
- ③ 固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る

2. 3社連携によるシナジー効果の発揮

- ① 拡販活動の推進
- ② 操業支援によるコスト削減
- ③ 調達コストの削減

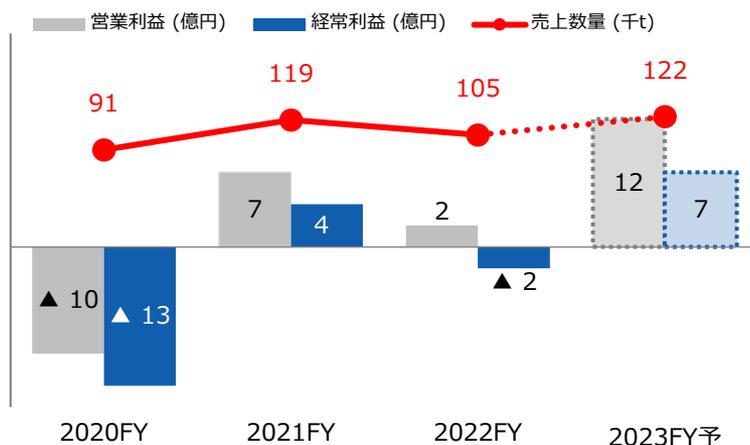
SSMIの状況

2023FY見通し

経常利益7億円(前期比+9億円)

- ・ 2023FY上期(1-6月)は、前年同期比で販売数量が増加したことに加え、原燃料価格が下落した影響もあり、経常利益は3億円(前年同期比+5億円(-2→3))。
- ・ 高収益分野を中心にした販売数量の拡大に加え、安価鉄源の有効活用や電力コスト低減の取り組みおよび生産工程の見直しなどによるコスト改善施策を遂行し、2023FYは7億円の黒字を計画。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化に向けた取り組み

1. 営業基盤・営業体制の強化
 高纯净度技術を生かした営業戦略策定
 拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
2. 変動費の削減
 エネルギー原単位改善や安価な鉄源や電力の有効活用
 による操業コスト・調達コストの削減
3. 固定費の抑制
 増資に伴う借入金の返済等による、金利コストの削減

2023年7月に84.57%まで出資比率向上。**生産、販売、技術、人材、財務面等を一層強化**することにより、**中長期的な経済成長が見込まれるインドにおけるプレゼンスをより確固**たるものとし、**当社グループのグローバル展開の強化と更なる成長**を図る。

4. トピックス

トピックス

技術・開発

1. 3Dプリンター用金属粉末 NOVASHAPE®シリーズ 高熱伝導性ダイカスト金型用合金粉末を商品化 (2023年9月29日公表)

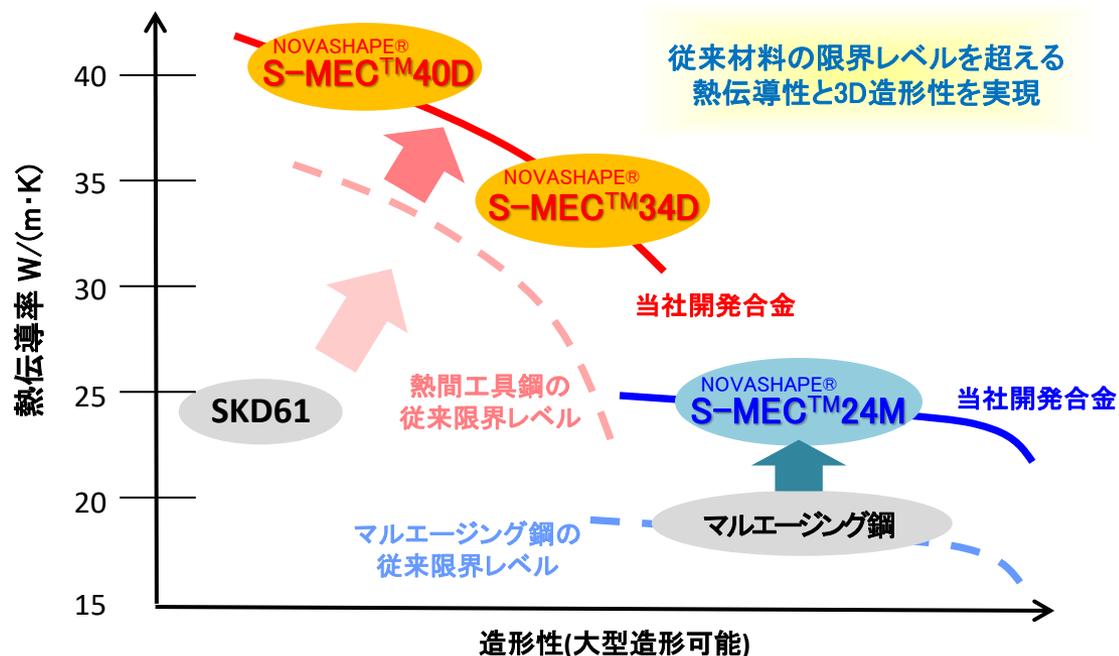
当社は、ダイカストの生産性向上や金型の長寿命化、大型金型の3D造形を可能とする高熱伝導性ダイカスト金型用3Dプリンター粉末のラインナップを商品化。今後も、3Dプリンター用金属粉末「NOVASHAPE®シリーズ」の新商品や技術の開発に注力し、材料・技術を通じたお客様の競争力向上につながるソリューションを提供していく。

3D造形プロセスの特徴に着目

- ・材料全体に高い焼入効果
 - ・急冷による材料の脆化抑制効果
- ⇒従来、焼入性や脆化防止に必要なだった合金元素を削減可能

3D造形プロセスの特徴を
活かした合金設計

高い熱伝導性と優れた造形性において、
従来の限界レベルを超える合金を実現



トピックス

2. 小学生の工場見学受け入れ (2023年7月~9月)

姫路市内の白鳥小学校、曾左小学校の児童約140名が、
社会科見学のため当社を訪問。

当社は、2023年度中に約600名の児童の社会科見学を受け入れ予定。

ESG



3. 第10回高機能金属展(メタルジャパン)へ出展 (2023年10月4日~10月6日)

幕張メッセで開催されたメタルジャパンへ出展。

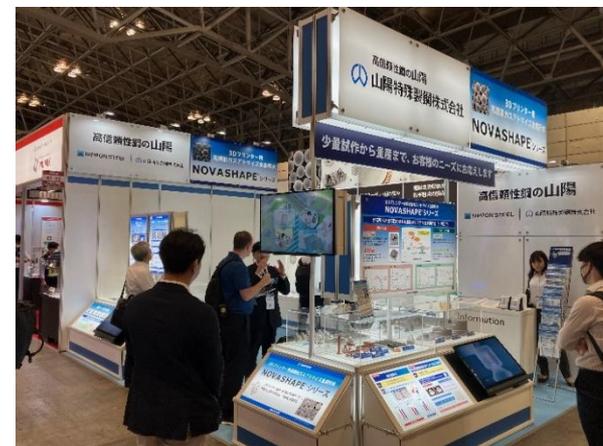
210名が当社ブースへ来場し、高機能金属粉末などをアピール。

その他

【当社出展製品例】

3Dプリンター用高機能金属粉末「NOVASHAPE®シリーズ」

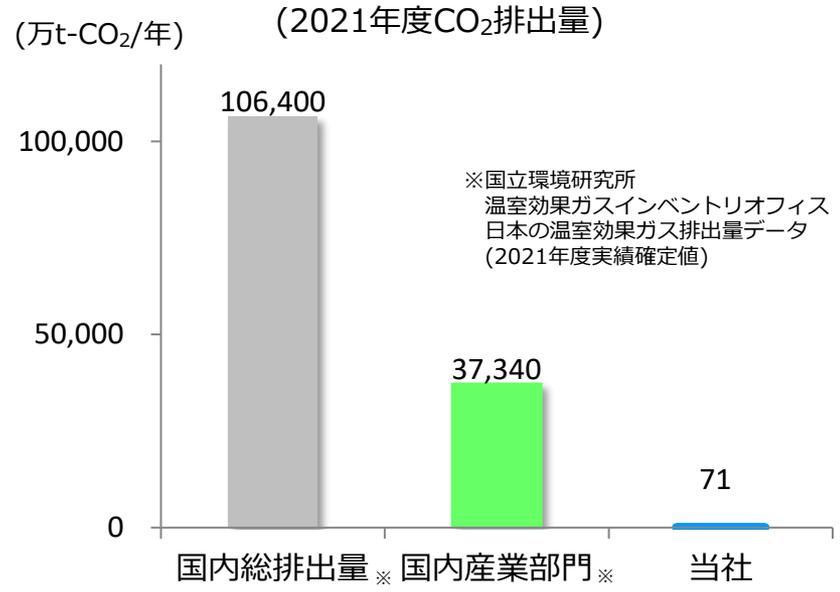
- ・ [NEW] 「S-MECT™40D」「S-MECT™34D」粉末
- ・ [NEW] 「S-MECT™24M」粉末
- ・ (開発品) Coフリーマルエージング鋼
- ・ (開発品) 造形性に優れた銅合金粉末
- ・ 歯科医療向け人工歯用CoCrMoW合金粉末 など



5. 參考資料

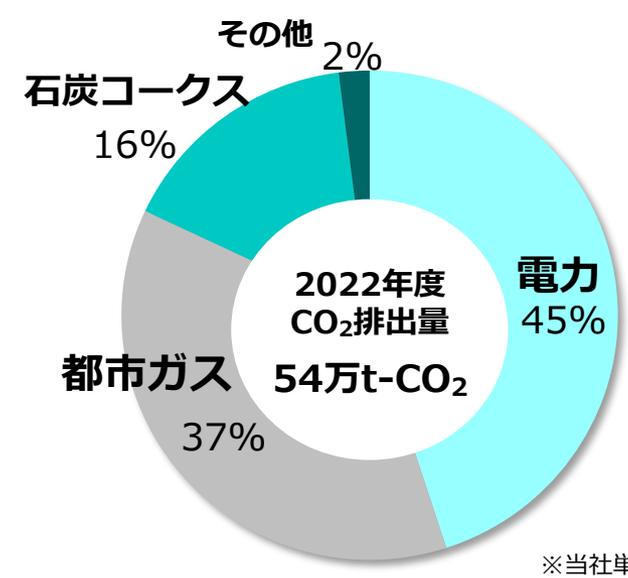
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ



■再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳



■当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

GXリーグへの参画

当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同、2023年5月にGXリーグに参画した。
自主的な排出量取引、市場創造のためのルール形成、ビジネス機会の創発、GXスタジオでの交流といったGXリーグにおける活動に積極的に参加していく。



エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上

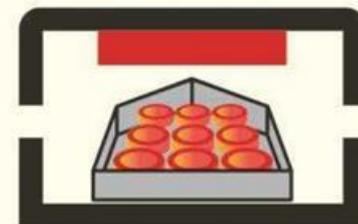


高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減



- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

欧州子会社Ovakoの取り組み

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

カーボンフリー水素プラントの建設に着手

SBT(目標設定)をコミット

※ SBT(Science Based Targets)
パリ協定が求める水準と整合した、5年~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと

2022年1月から カーボンニュートラルに移行

自社の製造プロセスにおける CO₂排出を実質ゼロに

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量を相殺
- ✓ 気候サーチャージを適用

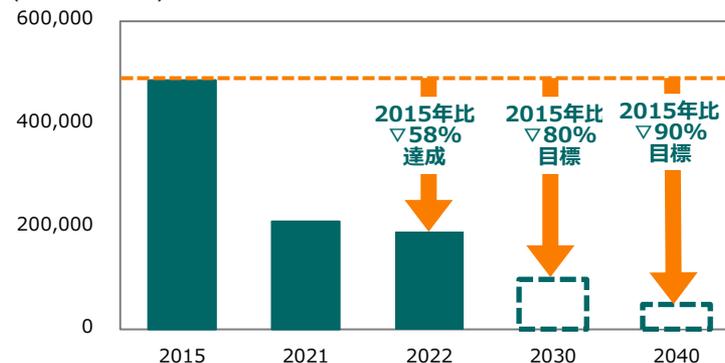
カーボンフリー水素プラント稼働開始

顧客との協同取り組み事例

- SKFと協同し、CO₂排出量90%減の軸受生産を達成
- Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車製造プロジェクトへ参画

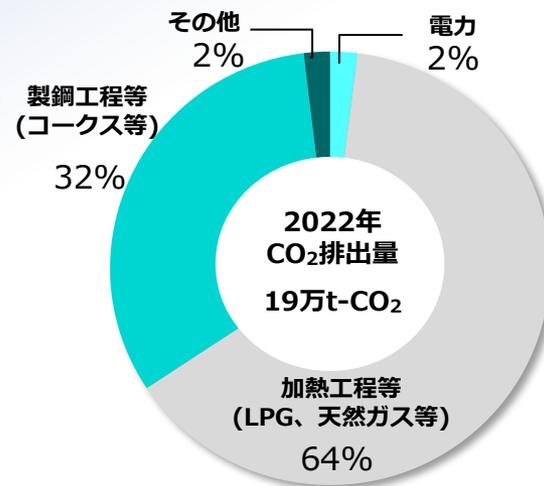
OvakoのCO₂排出量(Scope1+2)ロードマップ

(Total CO₂e ton)



Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2022をもとに作成

OvakoのCO₂排出量内訳



2020年
4月

2021年
6月

2022年
1月

2023年
9月

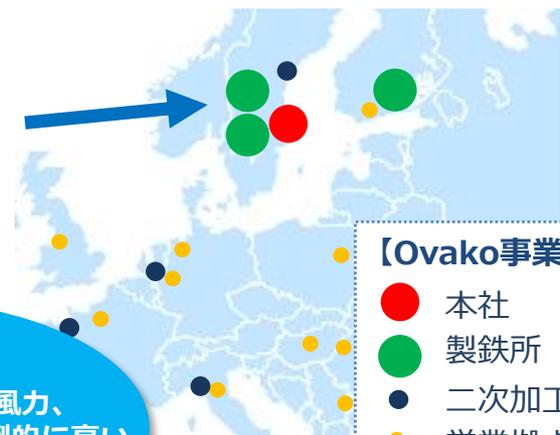


Ovakoのカーボンフリー水素プラントについて

- スウェーデン政府の財政支援と現地有力企業 (Volvo Group等)の参加を受けて、スウェーデンHofors工場内に建設
- 投資総額180百万SEK(スウェーデンクローネ)
※うち約4割をスウェーデン政府が財政支援
- 脱化石電力を使用した水の電気分解で、毎時約4千m³(約3千t/年)のカーボンフリー水素を生成可能
- 加熱炉等の燃料をカーボンフリー水素に転換することで、Hofors工場の加熱工程で発生するCO₂の約50%(約2万t/年)が削減可能



Hofors工場



【Ovako事業拠点】

- 本社
- 製鉄所
- 二次加工
- 営業拠点

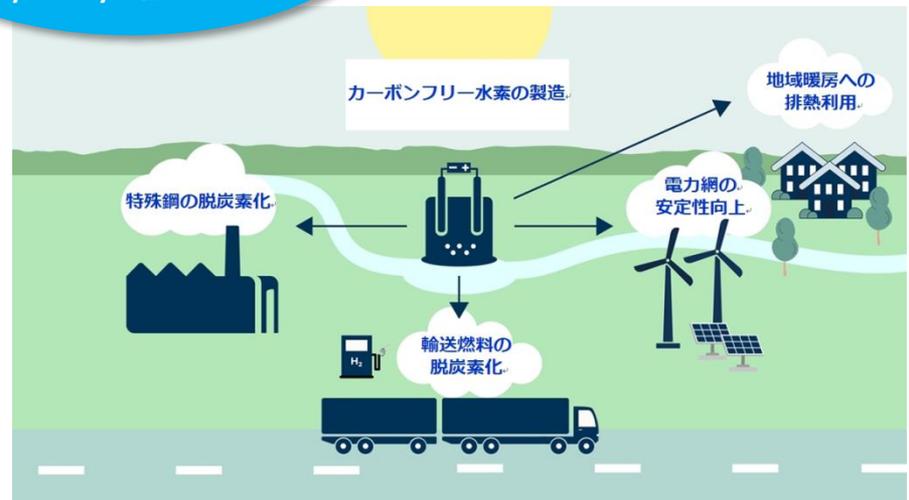
※スウェーデンは
 ・脱化石電力(水力、風力、原子力) 比率が圧倒的に高い
 ・産業用電力料金は日本の1/2~1/3程度

Ovakoは世界初 水素を燃料に用いた鋼材加熱に成功

2020年4月にスウェーデンのHofors工場で、ピット炉の燃料に水素を用いた鋼材加熱に世界で初めて成功

(ご参考)スウェーデンの財政支援制度について

- Industriklivet (= Industrial Evolution)
- ・スウェーデン鉱工業部門のGHG排出ゼロへの移行に向けて、技術開発を支援するためのプログラム (スウェーデンエネルギー庁所管)
- ・2021年の予算は750百万SEK(約100億円)、2020年は600百万SEK(約80億円)。なお、財政支援は2028年まで継続予定

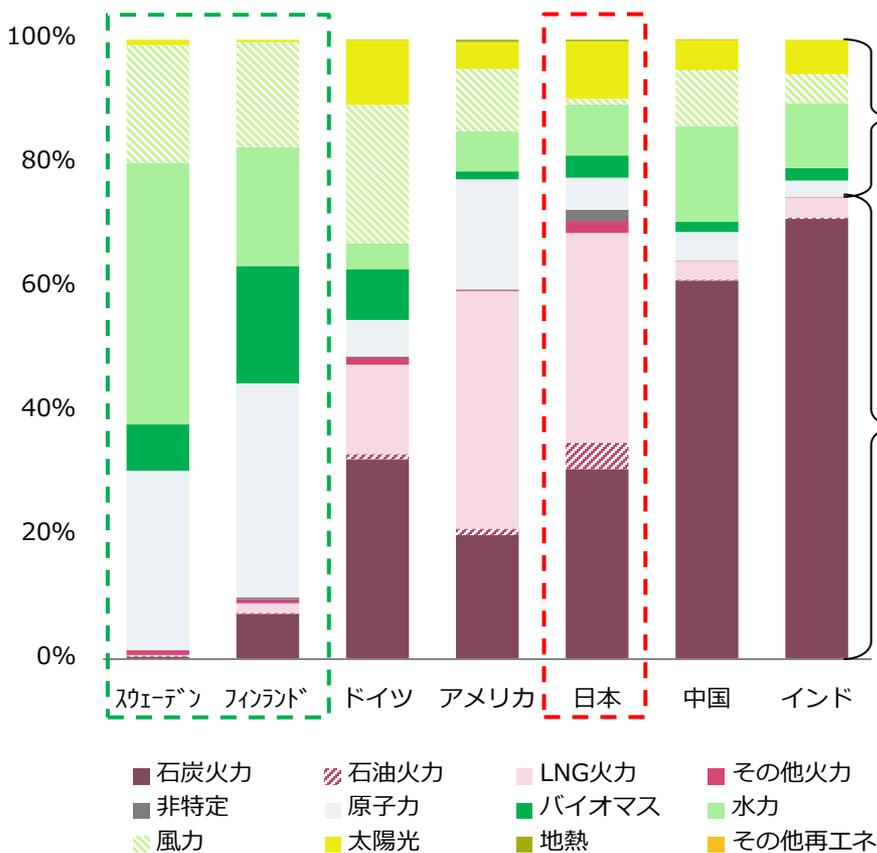


水素プラントは地域水素インフラ整備の第一歩。将来的には燃料電池トラック等への供給や、電力ネットワークとの相互作用実証等を通じた地域電力網の安定性向上、地域暖房への排熱利用等への貢献も期待されている。

各国の電源構成と産業用電力価格

電源構成(2022年)

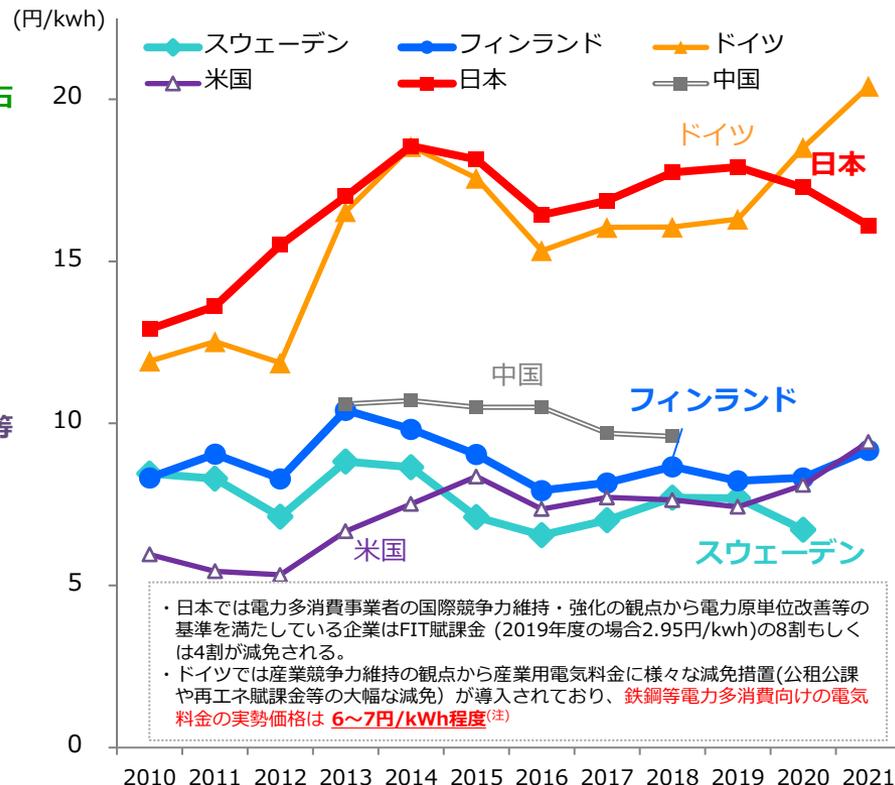
Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度



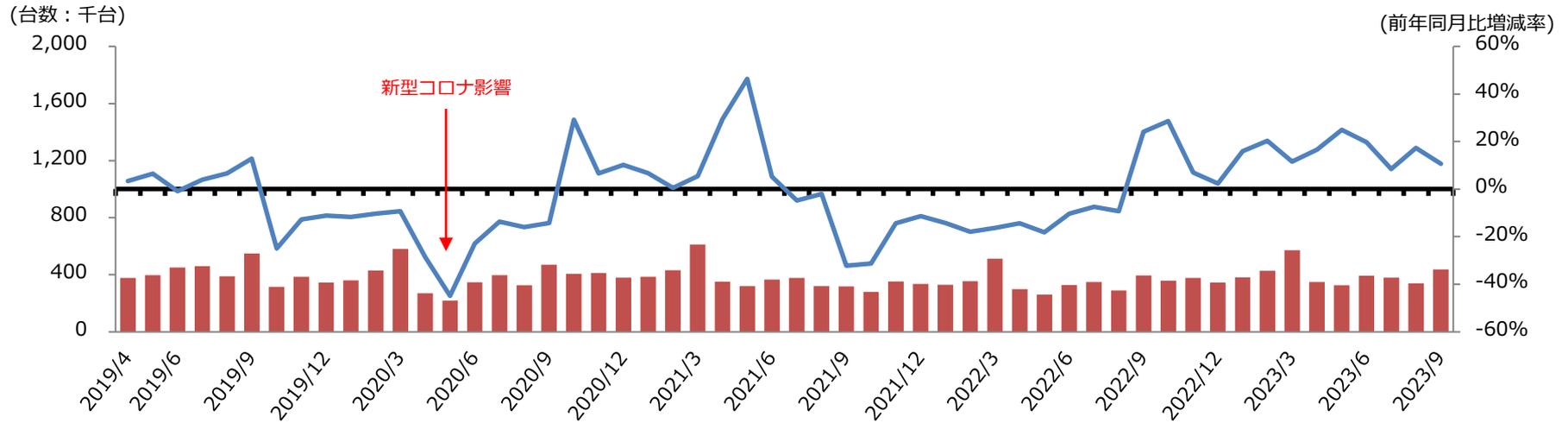
・日本では電力多消費事業者の国際競争力維持・強化の観点から電力原単位改善等の基準を満たしている企業はFIT賦課金(2019年度の場合2.95円/kWh)の8割もしくは4割が減免される。
 ・ドイツでは産業競争力維持の観点から産業用電気料金に様々な減免措置(公租公課や再エネ賦課金等の大幅な減免)が導入されており、鉄鋼等電力多消費向けの電気料金の実勢価格は**6~7円/kWh程度**(注)

※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

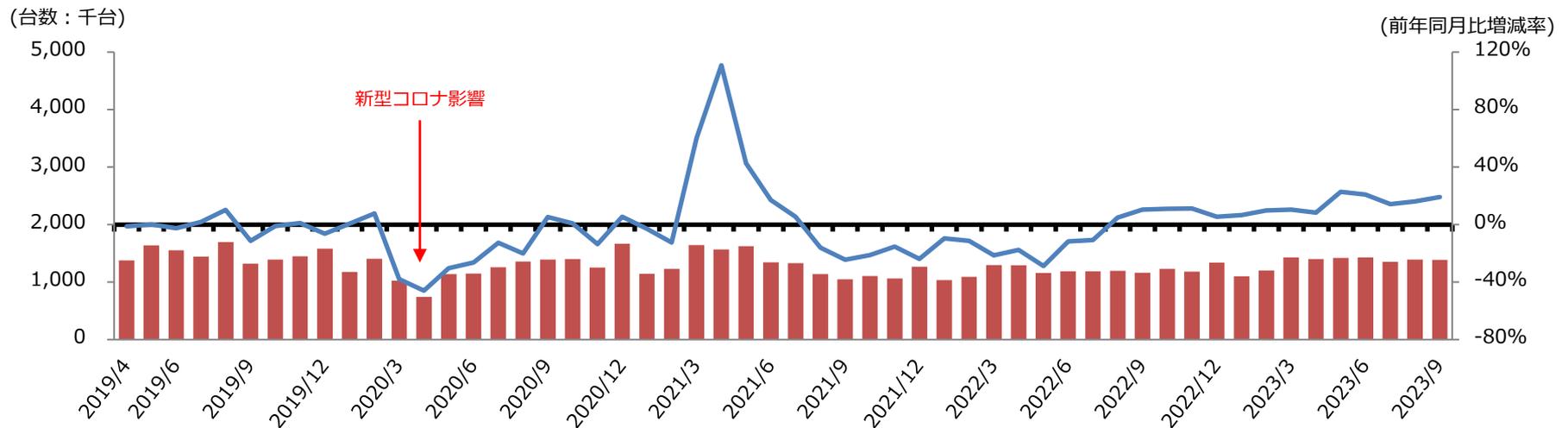
(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 出典：マークラインズ



米国自動車販売台数 出典：マークラインズ

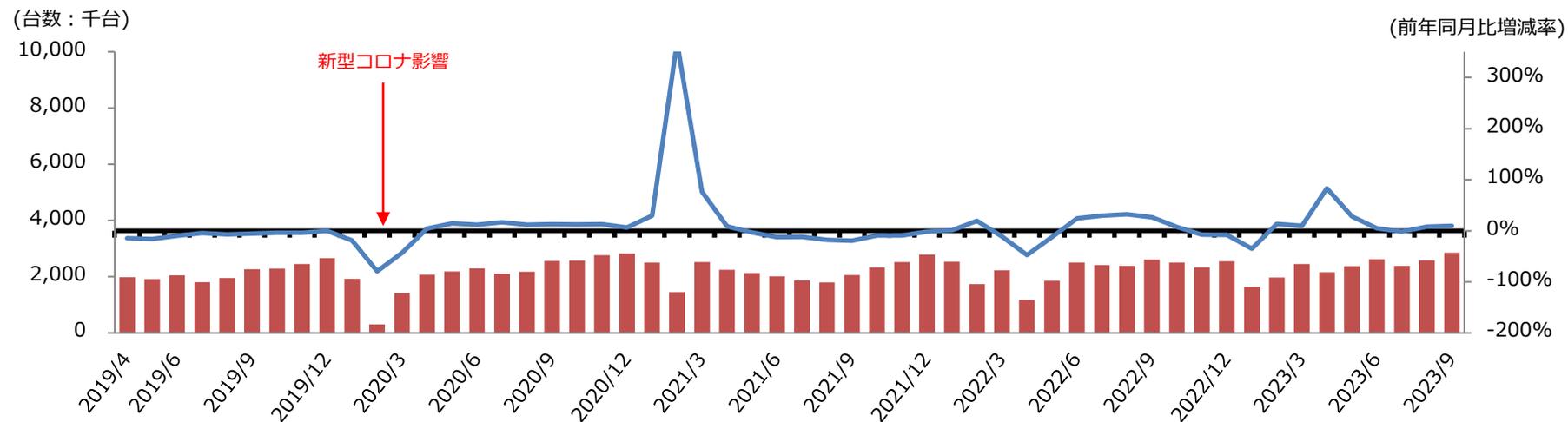


自動車市場の動向

インド自動車販売台数 出典：マークライNZ

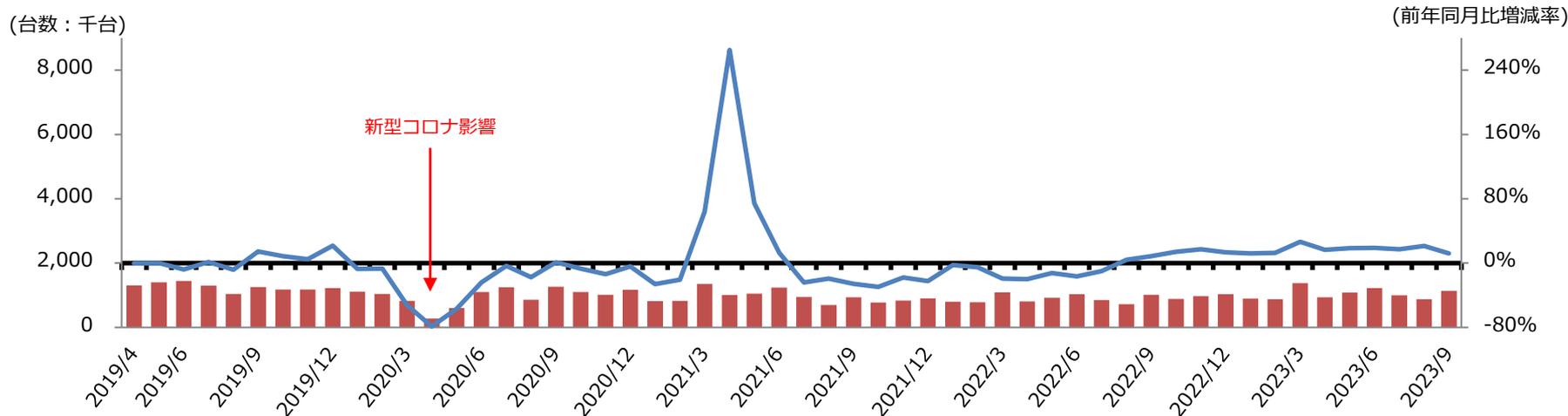


中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース) 出典：マークライNZ

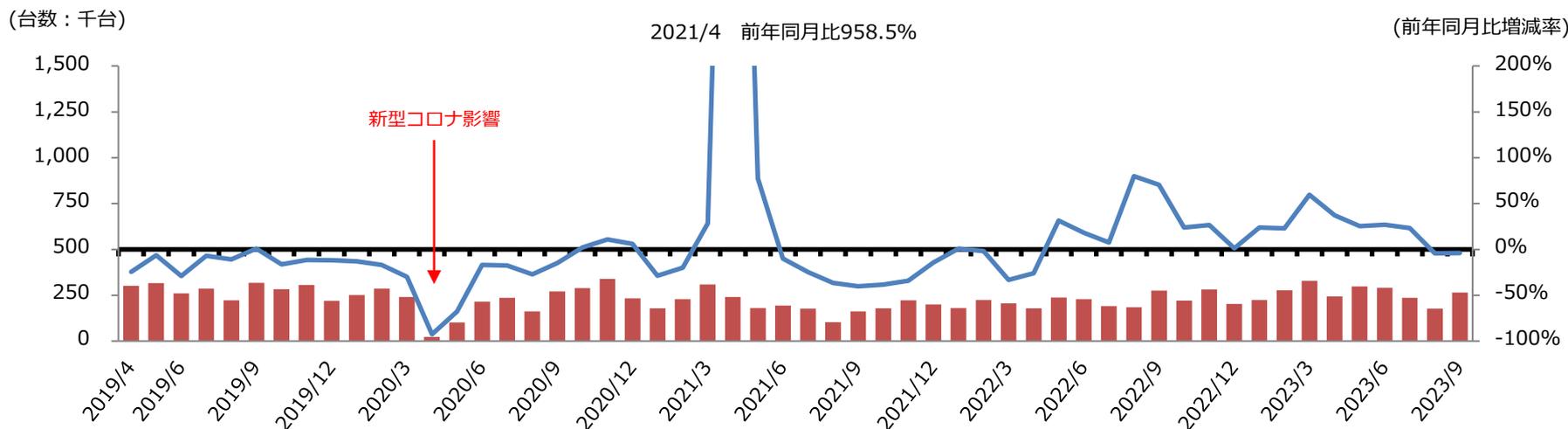


自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 出典：ACEA

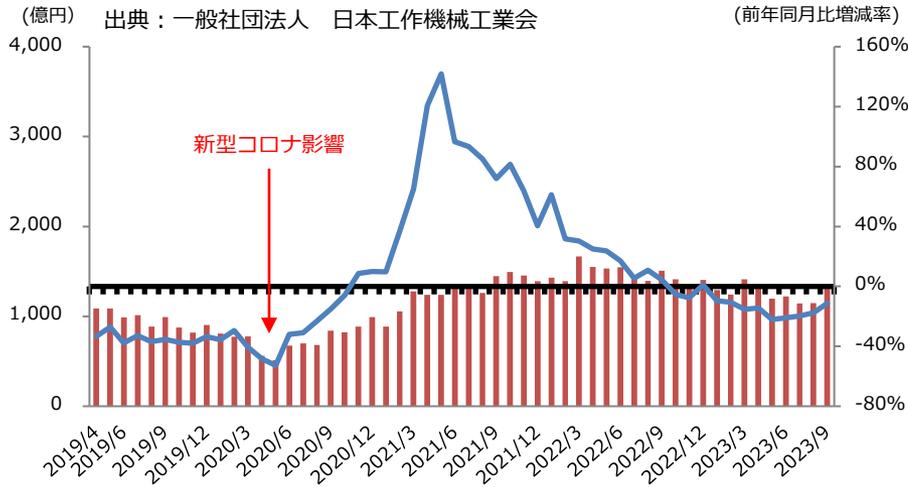


ドイツ自動車輸出台数 出典：VDA

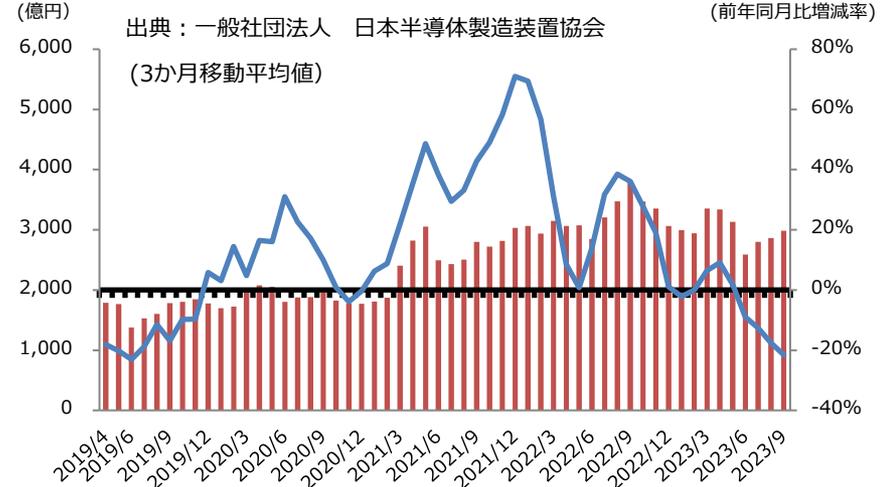


産業機械・建設機械市場の動向

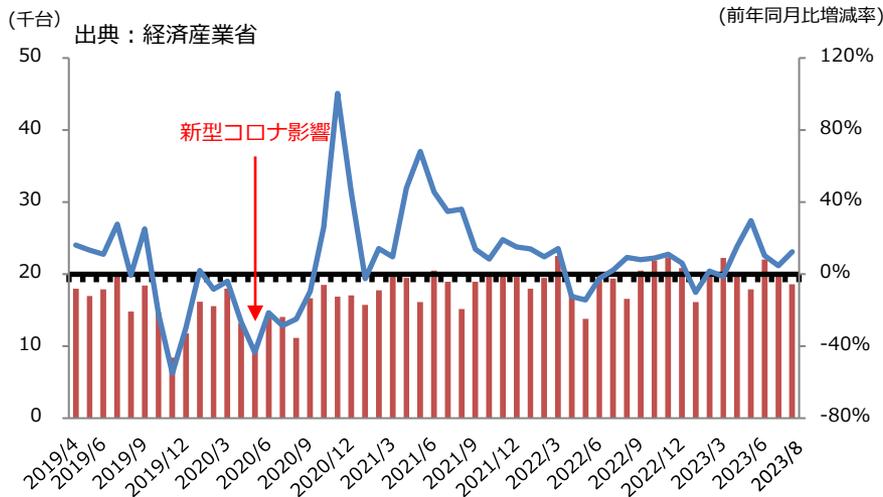
工作機械受注金額(日本)



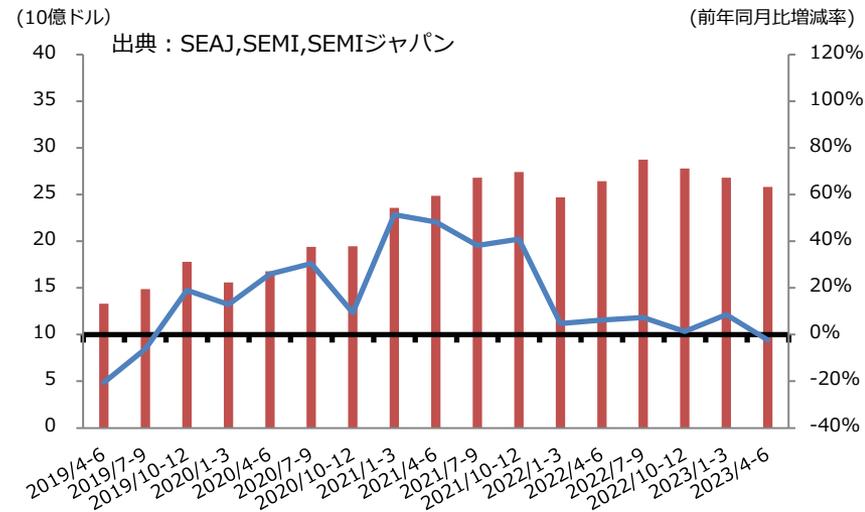
半導体製造装置販売金額(日本)



シヨベル系建設機械国内生産台数

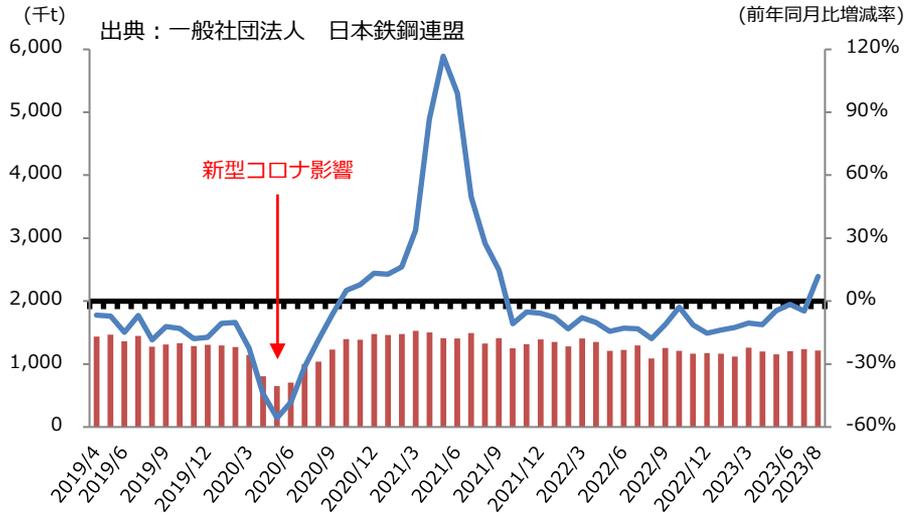


半導体製造装置販売金額(世界)

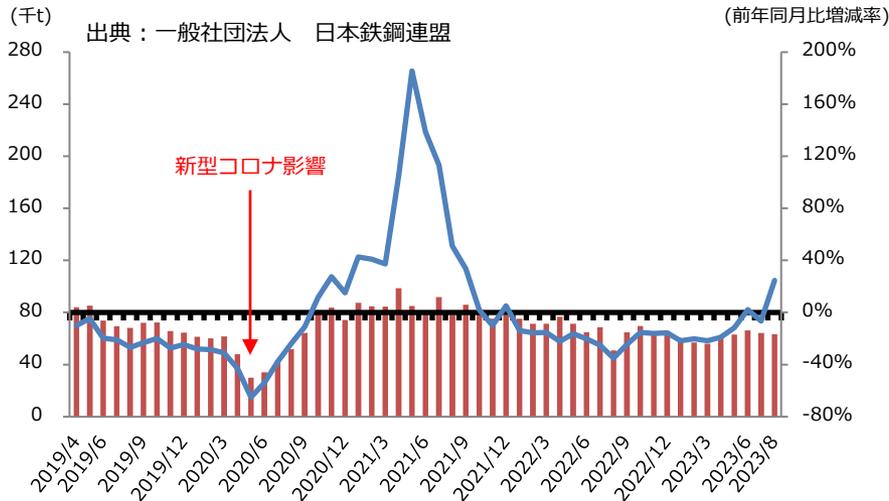


特殊鋼需要の動向

日本特殊鋼受注数量(特殊鋼)



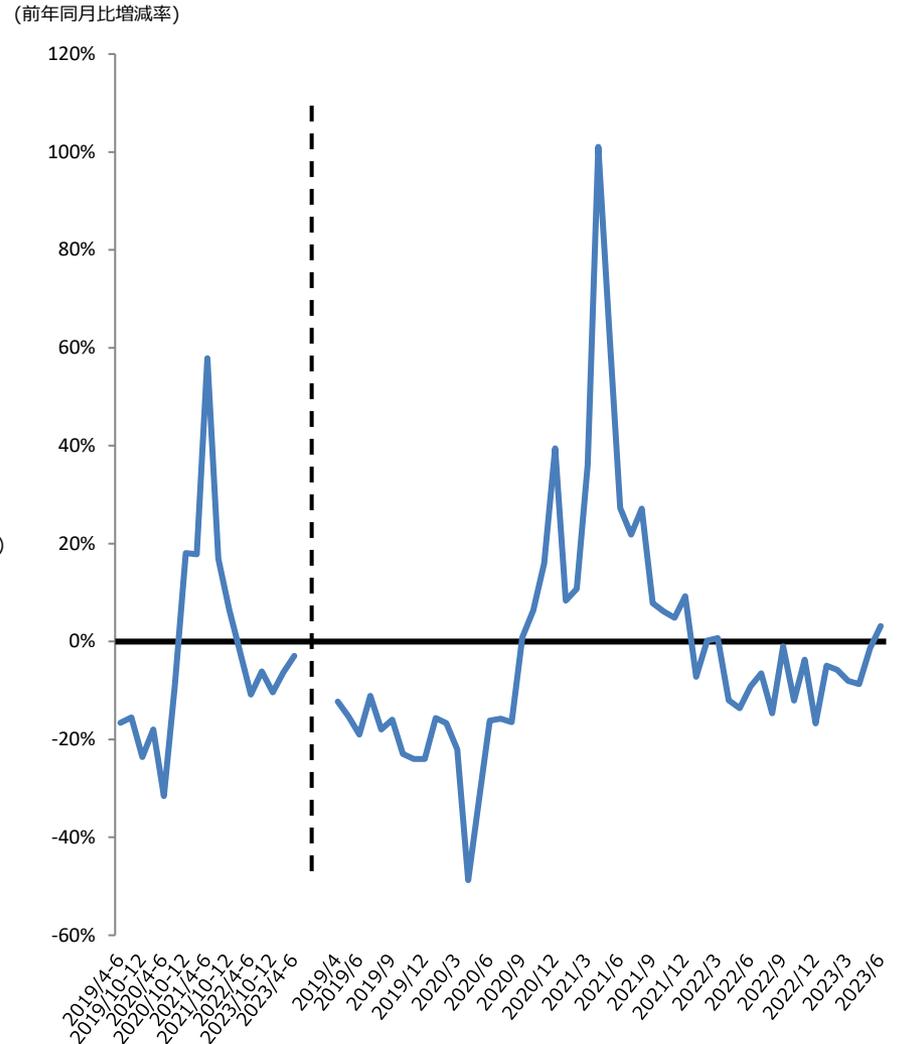
日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)



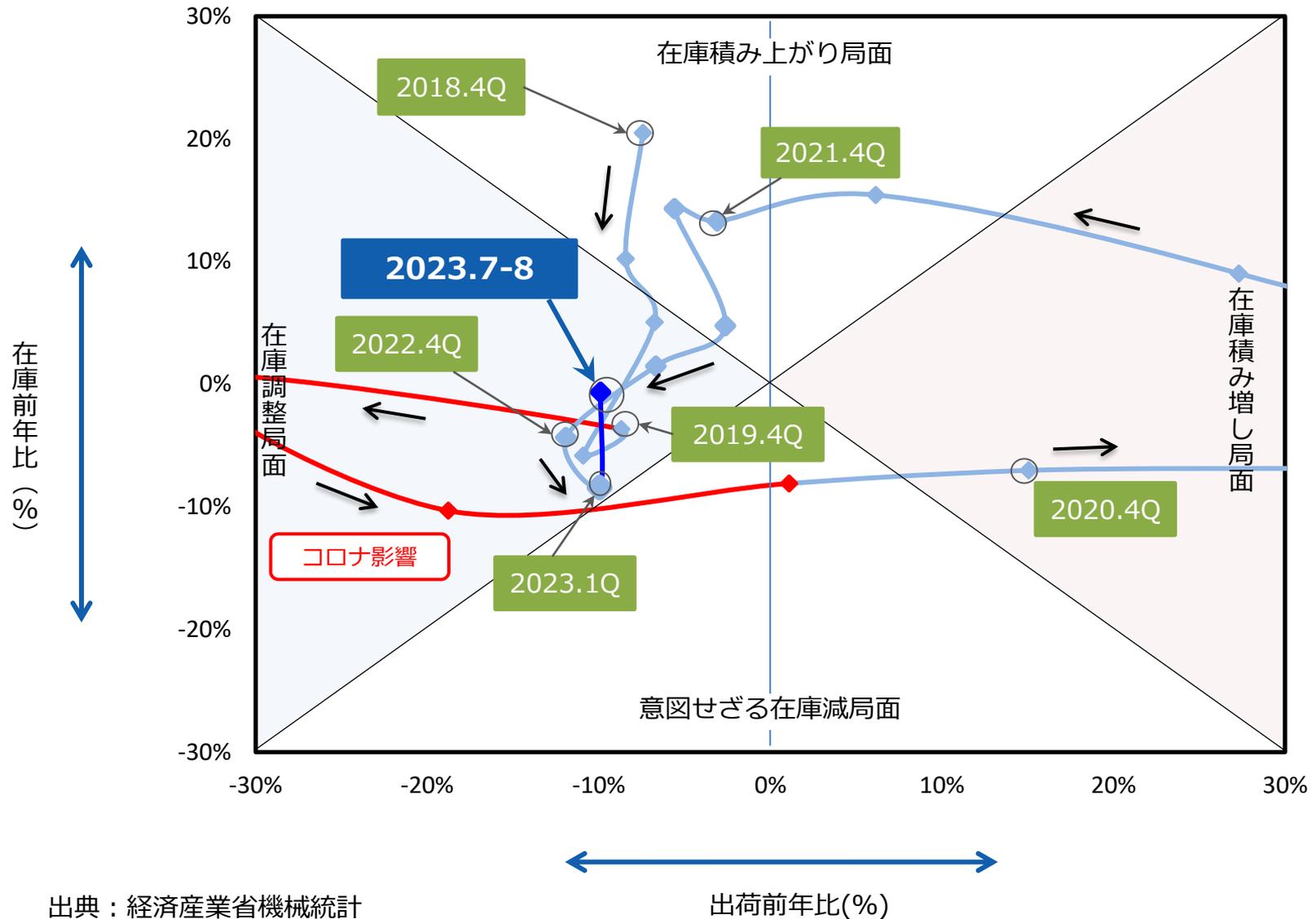
欧州デリバリー数量

棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

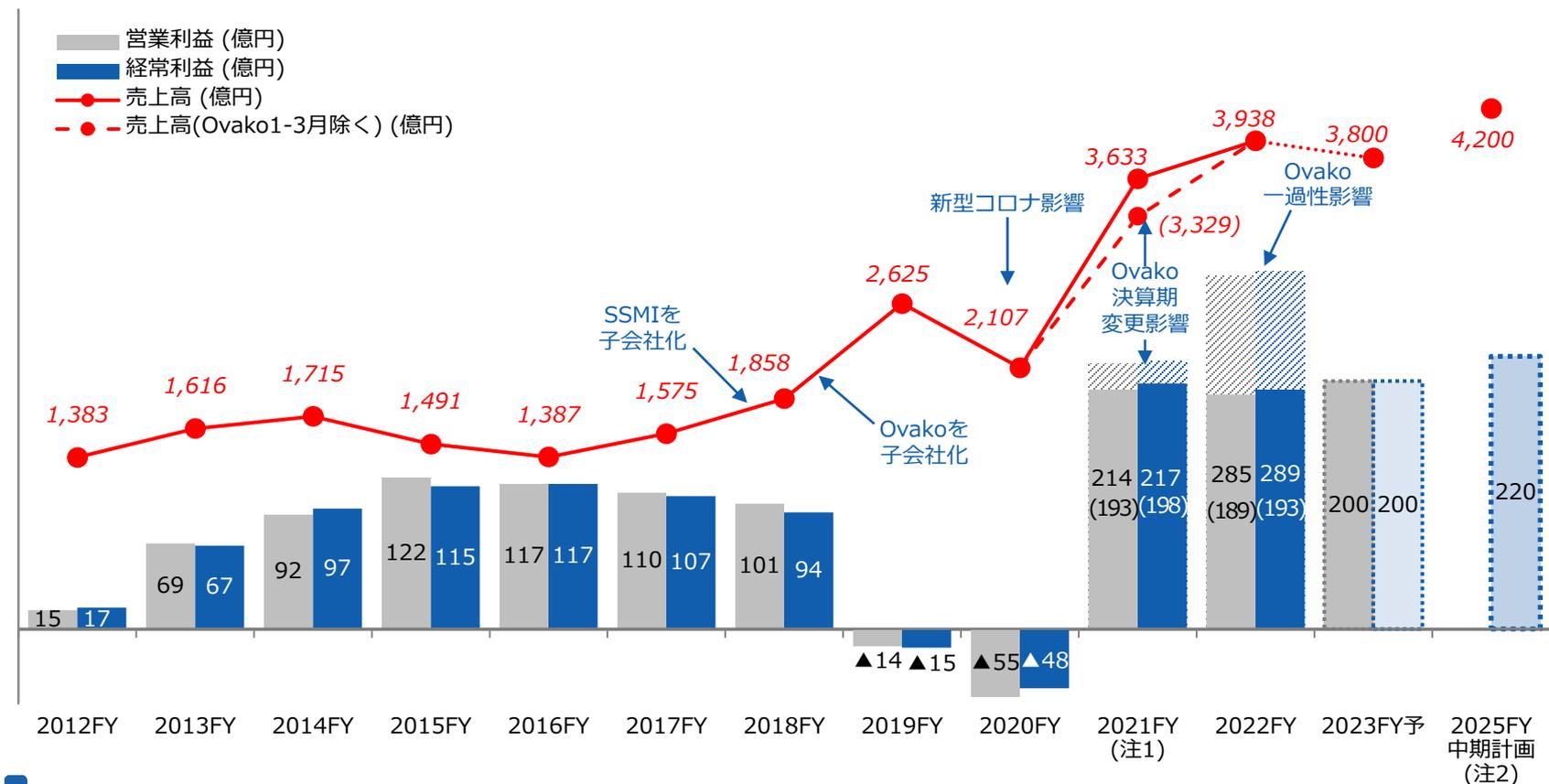
出典：欧州鉄鋼連盟



軸受在庫循環図



業績推移(年度)



年度	営業利益 (億円)	経常利益 (億円)	売上高 (億円)	売上高(Ovako1-3月除く) (億円)
2012FY	15	17	1,383	
2013FY	69	67	1,616	
2014FY	92	97	1,715	
2015FY	122	115	1,491	
2016FY	117	117	1,387	
2017FY	110	107	1,575	
2018FY	101	94	1,858	
2019FY	▲14	▲15	2,625	
2020FY	▲55	▲48	2,107	
2021FY (注1)	214	217	3,633	(3,329)
2022FY	285	289	3,938	
2023FY予	200	200	3,800	
2025FY 中期計画 (注2)			4,200	

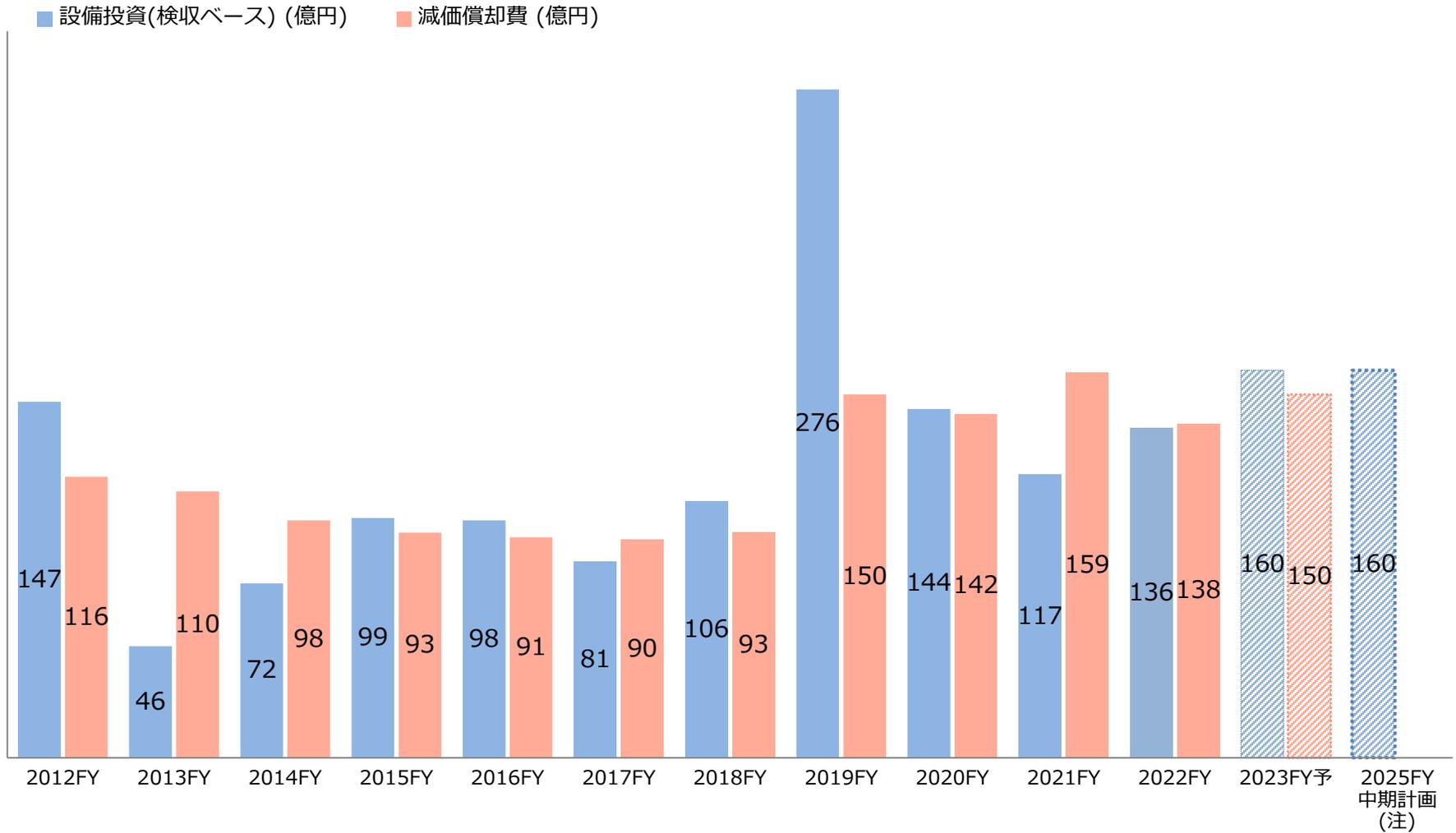
年度	ROE	ROE(のれん償却費除く)
2012FY	0.5%	0.5%
2013FY	4.1%	4.1%
2014FY	6.1%	6.1%
2015FY	6.6%	6.6%
2016FY	6.6%	6.6%
2017FY	5.6%	5.6%
2018FY	4.8%	4.8%
2019FY	-2.0%	0.3%
2020FY	-3.9%	-2.4%
2021FY (注1)	8.1%	9.9%
2022FY	10.1%	11.5%
2023FY予	6.3%	7.8%
2025FY 中期計画 (注2)	7%	8%

(注1)2021FYのOvakoおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

(注2)2023年7月28日公表値

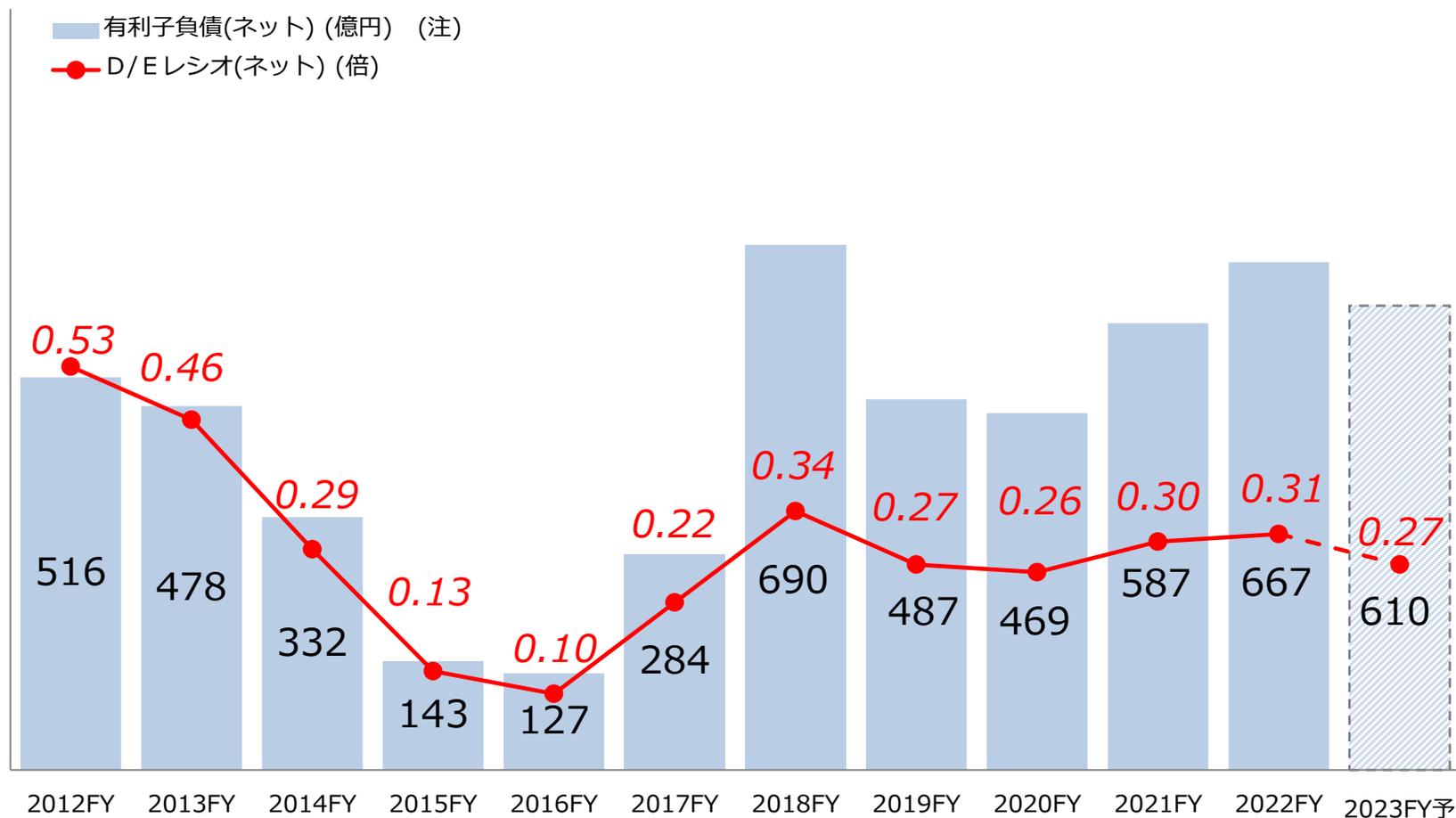
(注3)SSMIは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結

設備投資・減価償却費の推移



(注)2023年7月28日公表値

D/Eの推移



(参考)OvakoのD/Eレシオ(ネット) 1.75 0.83 0.38 0.31

(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したもの

損益の詳細 (対2022FY上期)

(単位：億円、円/株)

	2023FY上期 (A)	2022FY上期 (B)	増減 (A)-(B)	増減率 (%)
売上高	1,853	1,954	-102	-5.2
内、当社単独	962	965	-4	-0.4
内、Ovako	741	857	-116	-13.5
内、SSMI	112	99	+12	+12.6
営業利益	73	132	-59	-44.4
内、当社単独	27	53	-27	-49.8
内、Ovako	56	88	-33	-37.2
内、SSMI	5	▲1	+5	-
内、のれん償却費	▲16	▲14	-2	-
経常利益	78	137	-59	-43.1
内、当社単独	69	70	-1	-0.8
内、Ovako	51	89	-39	-43.2
内、SSMI	3	▲2	+5	-
内、のれん償却費	▲16	▲14	-2	-
税後利益 (注1)	52	99	-46	-47.0
1株当たり税後利益	96.1	181.2	-85.1	-47.0
のれん償却費を除く営業利益	89	146	-57	-39.0
のれん償却費を除く経常利益	94	152	-58	-38.0
のれん償却費を除く税後利益	68	113	-45	-39.6
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	125.3	207.5	-82.3	-39.6
売上数量 (千t)	739	812	-73	-9.0
内、当社単独	427	458	-30	-6.6
内、Ovako	256	303	-48	-15.7
内、SSMI	56	51	+5	+9.8

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～6月の数値

損益の詳細 (業績予想 2023/10/31公表 対前年度)

(単位：億円、円/株)

	2023FY			2022FY			増減 (C)-(F)
	上期実績	下期今回予想	通期今回予想	上期	下期	通期	
	(A)	(B)	(C)=(A)+(B)	(D)	(E)	(F)=(D)+(E)	
売上高	1,853	1,947	3,800	1,954	1,984	3,938	-138
内、当社単独	962	908	1,870	965	967	1,932	-62
内、Ovako	741	859	1,600	857	854	1,711	-111
内、SSMI	112	138	250	99	117	216	+34
営業利益	73	127	200	132	153	285	-85
内、当社単独	27	62	89	53	33	87	+2
内、Ovako	56	62	118	88	125	214	-96
内、SSMI	5	7	12	▲1	2	2	+10
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲14	▲15	▲29	-3
経常利益	78	122	200	137	151	289※	-89
内、当社単独	69	64	133	70	33	102	+31
内、Ovako	51	59	110	89	122	211	-101
内、SSMI	3	4	7	▲2	0	▲2	+9
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲14	▲15	▲29	-3
税後利益 (注1)	52	88	140	99	109	207	-67
1株当たり税後利益	96.1		257.0	181.2		380.7	-123.8
のれん償却費を除く営業利益	89	143	232	146	168	314	-82
のれん償却費を除く経常利益	94	138	232	152	166	318	-86
のれん償却費を除く税後利益	68	104	172	113	124	237	-65
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	125.3		315.7	207.5		434.4	-118.7
売上数量 (千t)	739	796	1,535	812	795	1,607	-72
内、当社単独	427	426	853	458	436	894	-41
内、Ovako	256	304	560	303	305	608	-48
内、SSMI	56	66	122	51	54	105	+17

(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

※ Ovakoの一過性影響を除くと193億円

損益の詳細 (業績予想 2023/10/31公表 対前回予想)

(単位：億円、円/株)

	2023FY			2023FY			増減 (C)-(F)
	上期実績	下期今回予想	通期今回予想	上期前回予想	下期前回予想	通期前回予想	
	(A)	(B)	(C)=(A)+(B)	(D)	(E)	(F)=(D)+(E)	
売上高	1,853	1,947	3,800	1,850	2,010	3,860	-60
内、当社単独	962	908	1,870	950	960	1,910	-40
内、Ovako	741	859	1,600	750	870	1,620	-20
内、SSMI	112	138	250	112	145	257	-7
営業利益	73	127	200	75	125	200	-
内、当社単独	27	62	89	31	79	110	-21
内、Ovako	56	62	118	50	53	103	+15
内、SSMI	5	7	12	5	7	12	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲16	▲16	▲31	-1
経常利益	78	122	200	80	120	200	-
内、当社単独	69	64	133	70	80	150	-17
内、Ovako	51	59	110	47	53	100	+10
内、SSMI	3	4	7	3	4	7	-
内、のれん償却費	▲16	▲16	▲32	▲16	▲16	▲31	-1
税後利益 (注1)	52	88	140	50	90	140	-
1株当たり税後利益	96.1		257.0	91.8		257.0	-
のれん償却費を除く営業利益	89	143	232	91	141	231	+1
のれん償却費を除く経常利益	94	138	232	96	136	231	+1
のれん償却費を除く税後利益	68	104	172	65	106	171	+1
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	125.3		315.7	119.3		313.8	+1.8
売上数量 (千t)	739	796	1,535	754	825	1,579	-44
内、当社単独	427	426	853	430	440	870	-17
内、Ovako	256	304	560	267	318	585	-25
内、SSMI	56	66	122	56	67	124	-2

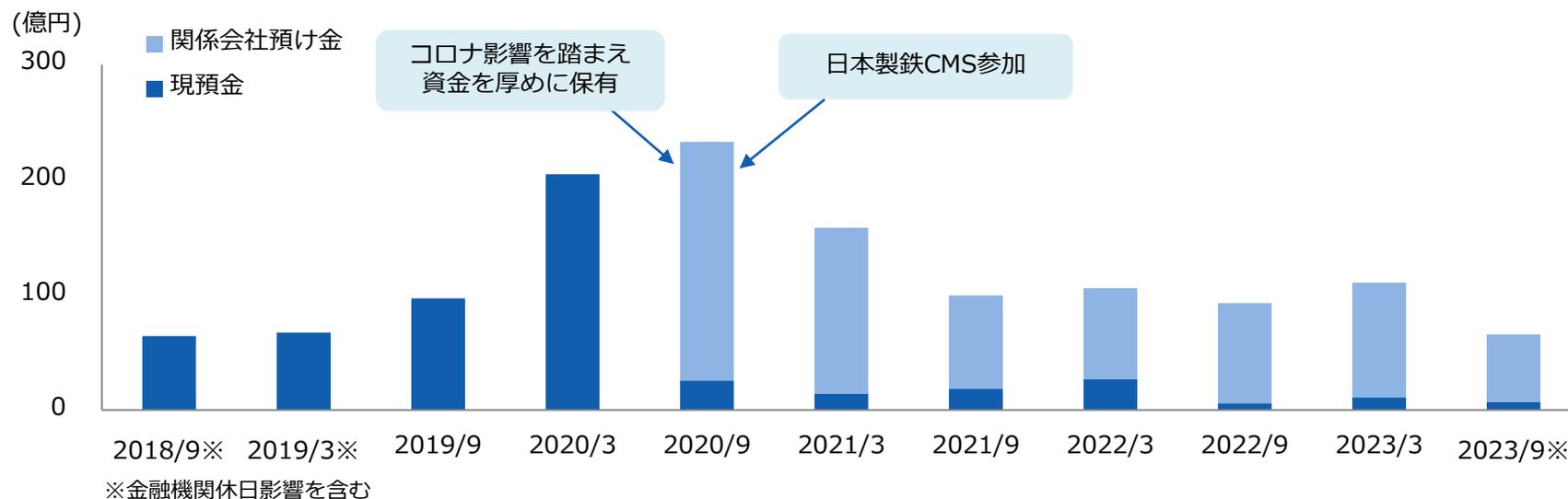
(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

関係会社預け金

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み。
(資金のセーフティネットとして機能)
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、従来の現預金という性質には変わらない。

関係会社預け金を含む現預金等の推移(単独)



(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>